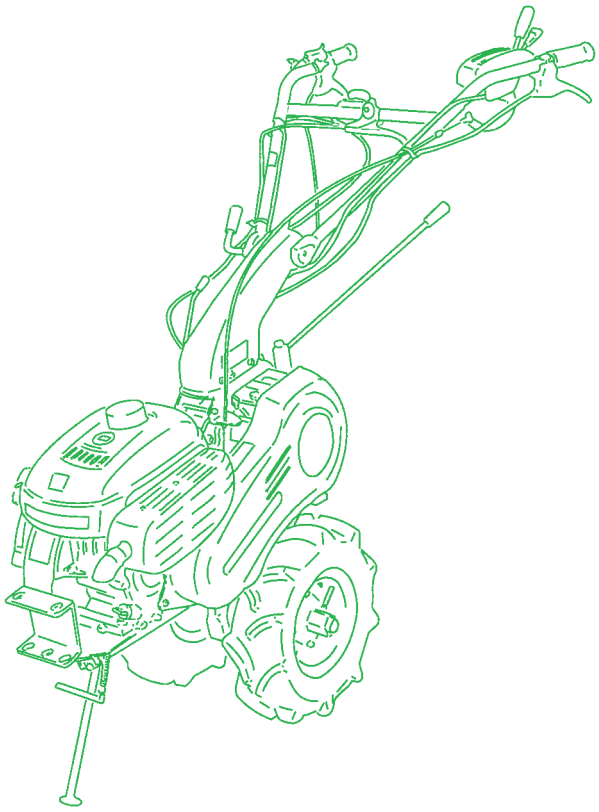
管理機

取扱説明書

MM457S・557S・657S・707S
MM757S・857S・1057S



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびは管理機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れおよび守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえにこの取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管しいつでも読めるようにしてください。
・また，この機械を貸与または譲渡される場合は，この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。

・本書では，安全上重要な事項を⚠で示し，次のように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告に従わなかった場合は，ケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお，この機械の品質・性能向上あるいは安全のために，使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が，機械と一致しない場合がありますのでご了承ねがいます。

●機械の使用目的について

・機械は，ほ場でのロータリ耕うん作業，農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください。使用目的以外の作業や改造などは行わないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造したりした場合は保証の対象となりません。（詳細は保証書をご覧ください。）

こんなとき，こんなことが知りたいとき，ここを見てください！

この取扱説明書は，次のように構成されています。まず，**安全作業のために**からお読みいただき，基本事項から操作，点検まで機械の正しい取扱い方を理解してください。

ページ

● **安全な作業をするための注意事項は？** **安全作業のために** 安全作業説明編

安全な作業をしていただくために，安全に関する基本事項，表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。よく読んで必ず守ってください。

● **使用前に知っておかなければならないことは？** **ご使用まえに** ①

機械の概要「**仕様（装備）**」等について説明しています。

● **各部のはたらきを知るには？** **各部のはたらき** ④

各部の主な名称，操作レバー，装置の取扱いを説明しています。

● **管理機を動かすには？** **運転のしかた** ⑪

運転前の点検：作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。
運転操作のしかた：エンジンの始動，走行のしかた，自動車への積込み・積降ろしのしかた等を説明しています。

● **ほ場作業を行うには？** **作業のしかた** ⑱

管理機作業の基本操作を説明しています。作業機の条件やほ場条件にあった機械の調整をして，上手な作業をしてください。

● **機械を長もちさせるには？** **手入れのしかた** ㉕

機械をいつも正常な状態に保つために，手入れのしかたについて説明しています。
「**定期点検整備表**」に従って保守，点検してください。

● **機械を３ケ月以上格納するときは？** **長期格納のしかた** ㉟

機械を長期間，格納するときの手入れのしかたについて説明しています。

● **故障かなと思った時は？** **不調時の処置** ㊲

作業中のトラブルや不調，異常を感じた時はすぐ原因を調べ処置してください。

● **諸元・関連部品は？** **付　　表** ㊵

機械に係る諸元表・消耗部品等を一覧表で説明し，また，取扱説明書にでてくる専門用語を解説しています。

もくじ

安全作業のために ……（安全作業説明編）

ご使用まえに ……1

1．保証とサービスについて…… 1
2．仕様（装備）について…… 2
3．用語について…… 3

各部のはたらき ……4

1．各部の名称…… 4
2．運転装置の取扱い…… 5
　1．エンジンコントロール関係…… 5
　2．運転装置関係…… 6

運転のしかた ……11

1．運転まえの点検……11
2．エンジンの始動と停止……12
　1．エンジン始動のしかた……12
　2．エンジン停止のしかた……13
3．発進・旋回・停車のしかた……14
　1．発進のしかた……14
　2．旋回のしかた……16
　3．停車のしかた……16
4．自動車への積込み・積降ろし……17
　1．自動車・アユミについて……17
　2．機械の取扱い……17

作業のしかた ……18

1．作業まえの準備……18
　1．輪距の調節……18
　2．作業機の取付け……20
　3．ハンドルの調整……20
　4．主変速レバーの回動……21
2．ほ場作業のしかた……22
　1．ほ場への出入りのしかた……22
　2．作業に適した速度の選びかた……22
　3．上手なほ場作業のしかた……24

手入れのしかた ……25

1．定期点検整備……25
2．給油・注油のしかた……26
　1．燃料の補給……27
　2．エンジンオイルの点検，交換……27
　3．トランスミッションケースのオイル点検･交換…28
　4．エアクリーナのオイル補給……28
　5．注油個所……28
3．各部の点検と掃除のしかた……29
　1．エアクリーナの掃除……29
　2．燃料ストレーナの掃除……29
　3．点火プラグの点検と掃除……29
　4．リコイルスタータの掃除……30
　5．燃料ホースの点検……30
　6．タイヤの点検……30
4．各部の点検と調整のしかた……31
　1．主クラッチの調整……31
　2．ベルトガイドの調整……32
　3．サイドクラッチの調整……32
　4．駐車ブレーキの調整 ……33
　5．エンジンコントロールワイヤの調整……33
　6．ハンドル回動レバーの調整……34
　7．ハンドルワンタッチ上下レバーの調整…34

長期格納のしかた ……35

1．機械の掃除と洗浄……35
2．エンジンの手入れ……35
3．格納……36
4．再使用する時は……36

不調時の処置 ……37

1．エンジン部……37
2．本機……39

付表 ……40

1．主要諸元……40
2．電気配線図……41
3．主な消耗部品……41
4．潤滑油について……43
5．用語解説……44

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ

1．安全作業のしかた……（安-1）

⚠作業前に次のことを守りましょう！……（安-1）

⚠安全作業のポイント……（安-2）

⚠作業前の一般的な注意事項……（安-4）

⚠点検・整備及び掃除をする時は……（安-6）

⚠エンジンを始動する時は……（安-8）

⚠走行をする時は……（安-9）

⚠自動車への積込み・積降ろしをする時は……（安-11）

⚠ほ場で作業をする時は……（安-12）

⚠１日の作業が終わったら……（安-15）

⚠長期格納する時は……（安-16）

2．表示ラベルについて……（安-17）

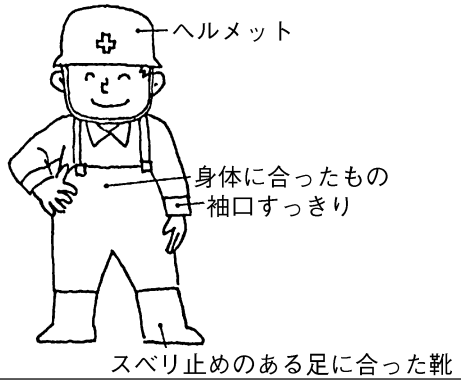
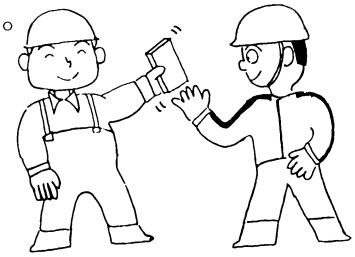
安全作業のために

1．安全作業のしかた

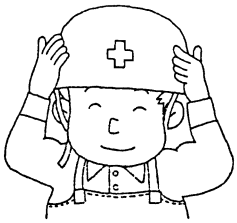
・安全上の重要な事項を ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 の３段階に分類して説明していますので，よく読んで理解し安全作業に努めてください。

・なお，この項の安全作業の説明は**管理機全般**についてのものです。これ以外にも本文の中でも同様に説明していますので，よく読んで必ず守ってください。

⚠作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆このような人は運転しないでください。 ●酒気をおびた人 ●妊娠している人 ●16才未満の人 ●指導者のいない運転未熟練者 ●過労・病気・薬物の影響，その他の理由により，正常な運転操作ができない人 ◆運転する人は健康に気をつけて適当な睡眠と休けいをとってください。	誤操作しやすく思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。  	このような服装は衣服が回転部に巻込まれたり，足をスベらせたりして思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆機械を他人に貸す場合は取扱説明書も合わせて貸して，安全な作業ができるよう説明してください。 	借りた人が不慣れなため，思わぬ事故を引起こすことがあります。

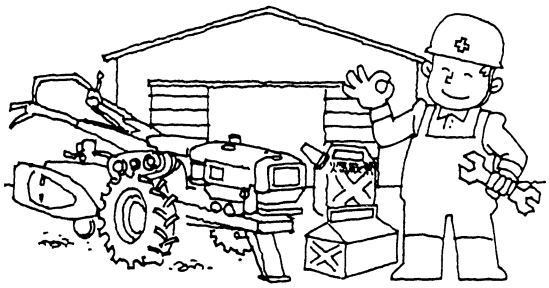
⚠ 安全作業のポイント



- 取扱説明書，機械のラベルをよく読んでから運転する

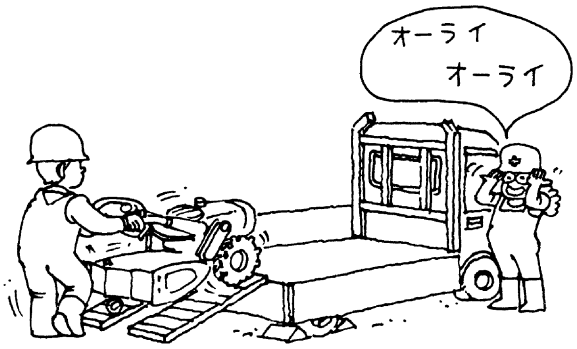
始業・点検　準備点検

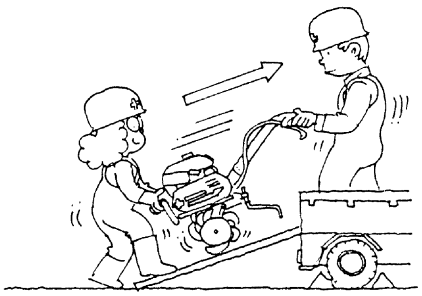
- 平坦な場所でエンジンを停止する
- エンジン，マフラ，燃料タンク回りを掃除する
- 燃料ホース，電気配線を点検する
- 給油，給水量の点検はエンジンが冷えているときに行う
- 各部の締付け，セットピンの脱落はないか確認する
- 燃料補給時は火気を近づけない
- クラッチ，レバー関係が働くか点検する
- 取外したカバー類は全て取付ける
- 油脂類の廃却は，廃却設備のある所で処理する



エンジン始動

- 各操作レバーを《N》(中立) または《切》にする
- 機械の周囲から人を遠ざける
- 屋内やハウスでの始動は，窓や戸を開けて換気をする







走行・運転　自動車への積み・降ろし

- 自動車は荷台に天井のない車を使用する
- アユミは，強度，幅，長さ，すべり止め，フックのあるものを使用する
- アユミは，自動車の荷台に平行にかけ，フックが外れないことを確認する
- 周囲を確認し，機械の回りに人を近づけない
- 積込みは前進，積降ろしは後進で低速で行う（ただしタイヤを装着してない小型の機械はエンジンを停止し，積込みは，後進方向で引き上げ，積降ろしも後進方向で引き降ろします）
- アユミの上ではクラッチ操作や変速操作をしない

走行運転

- タイヤのセット幅を広げて機械を安定させる
- ハンドル回動式の場合は正規の位置で行う
- 発進は周囲を確認して行う
- ロータリ等の作業機を回転したまま走行しない
- 発進，停止，旋回は低速で行う
- 人や物を機械にのせない
- 公道および夜間の移動は自動車にのせて行う

狭い農道，凸凹道路，坂道の走行

- スピードを落として走行する
- 下り坂では速度を下げてエンジンブレーキを使う
- 坂道ではサイドクラッチや主クラッチを切ったり，変速レバーを《N》(中立) にしない
- 対向車を避ける時，端に寄りすぎない
- 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない

停車・駐車

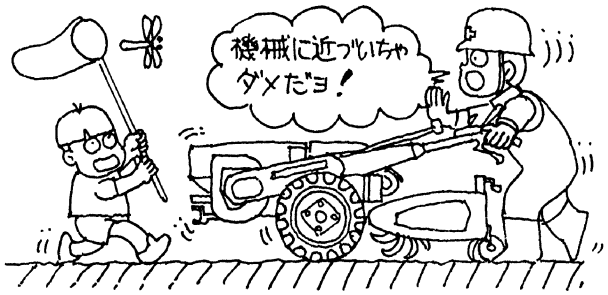
- 平坦な場所でエンジンを停止する
- 坂道では駐車しない（やむをえないときは，歯止めをする）

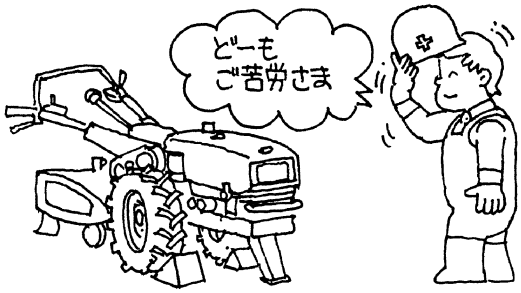
ほ場作業　ほ場の出入り

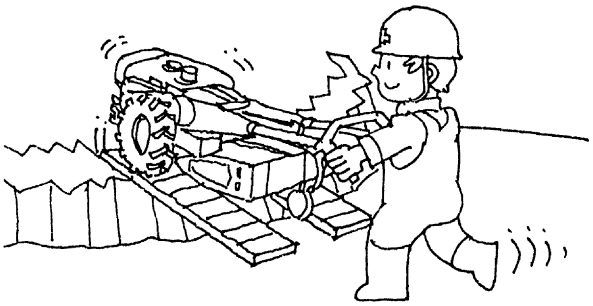
- 低速であぜに対して直角に行う
- 高あぜ，溝越え，急傾斜はアユミを使用する
- 上がるときは前進，降りるときは後進で足元を確認して行う
- ロータリ等の作業機を回転させたまま出入りしない
- あぜがくずれないか確認しゆっくり行う

ほ場での作業

- 人を機械のそばに近づけない
- 旋回時は周囲，足元を確認して行う
- あぜ際での作業は枕地を十分とって旋回する
- 急傾斜地では作業をしない
- 後進するときは，エンジン回転を下げて背後の障害物を確認しゆっくりと行う
- 後進はハンドルが持ち上がるのでしっかり押さえて行う
- 疲れを感じたら無理に作業を続けず休憩をする







作業中途の点検

- 運転直後のエンジン，マフラ等高温部に触れない
- ロータリ等に巻付いた草や土を取除く時はエンジンを停止して行う
- 作業機の脱着は平坦な場所で行う
- ロータリ等を外した場合はＰＴＯキャップをつける
- 取外したカバーはすべて取付ける

格　納　１日の作業が終わったら

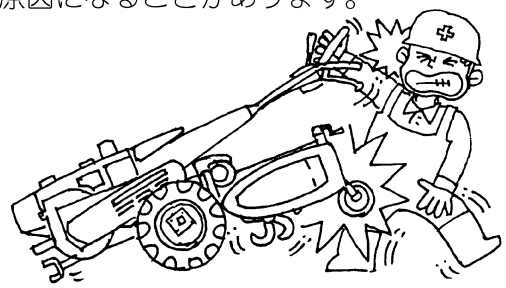
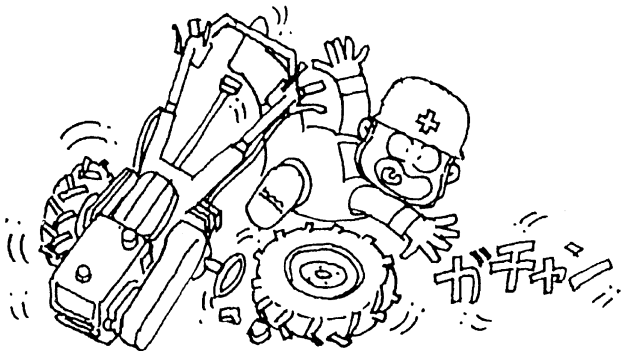
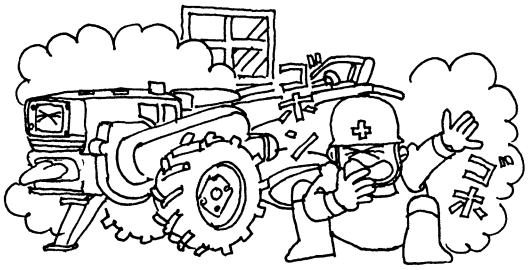
- 平坦な場所に置き，エンジンを停止する
- エンジン，マフラ，燃料タンク回りを掃除する

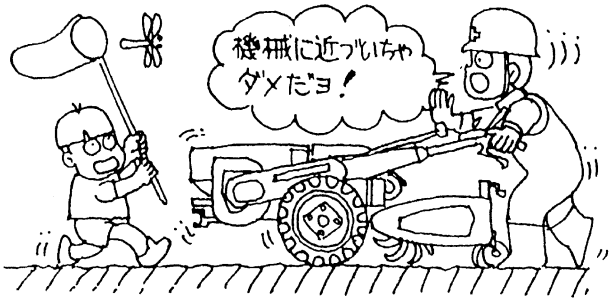
長期格納

- ガソリン車は燃料コックを「閉」にし，気化器内の燃料を抜取る
- タイヤに歯止めをする
- シートカバーはエンジンが冷えてからかける
- 機械は改造しない
- 部品または機械を廃却するときは「お買いあげ先」に相談する

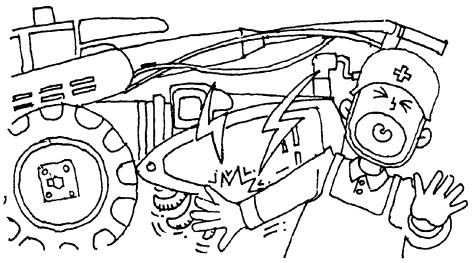
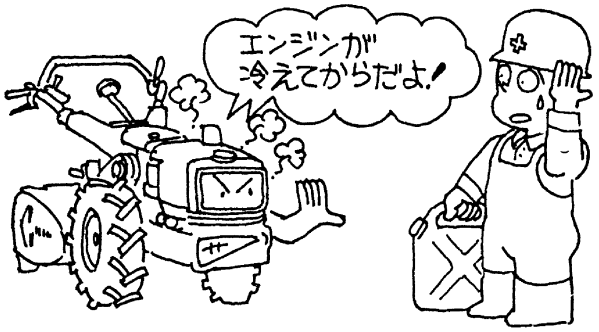
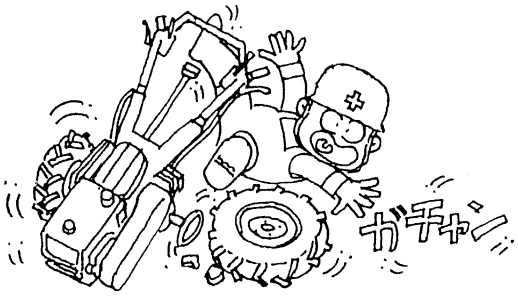
⚠作業前の一般的な注意事項

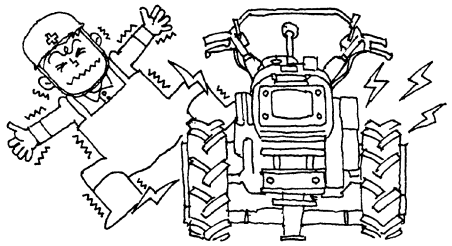
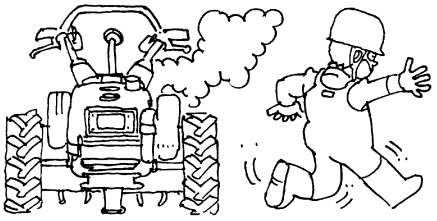
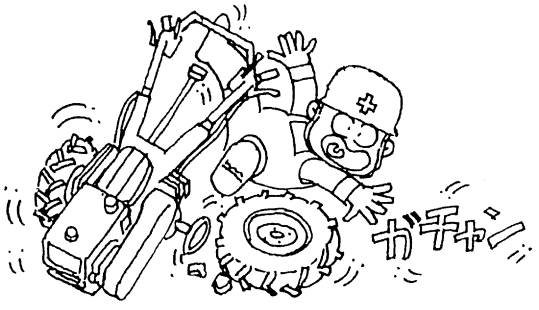
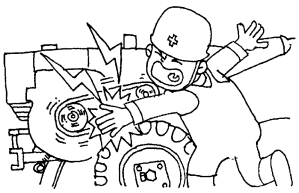
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆機械はほ場でのロータリ耕うん作業，農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください。その他の目的では使用しないでください。	思わぬ事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆機械は改造しないでください。	改造すると機械の機能に悪影響を与えるだけでなく事故の原因になることがあります。 
⚠警告 ◆管理機を使用する前後に点検を行い，異常個所は直ちに整備してください。 ◆１シーズンごとに定期点検・整備を受けてください。	整備不良が原因で思わぬ事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。 ●換気が不十分な所では暖機運転や作業はしない。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。 

必 ず 守 っ て く だ さ い	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆機械に人や物を乗せたり，人を近づけないでください。 ● 管理機や作業機の上に人や物を乗せない。子供等，人を近づけない	思わぬ事故を引起こす原因となります。 

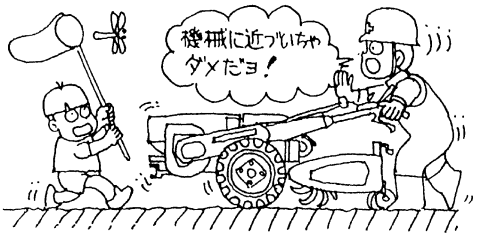
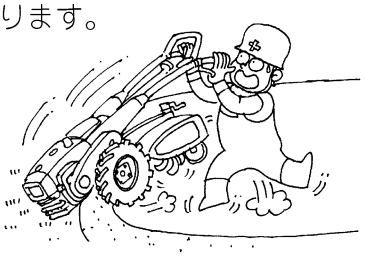
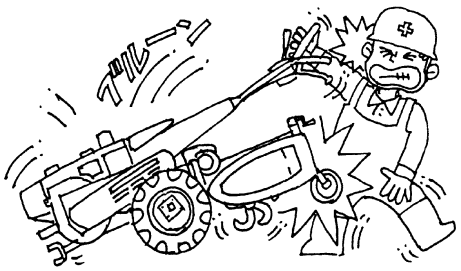
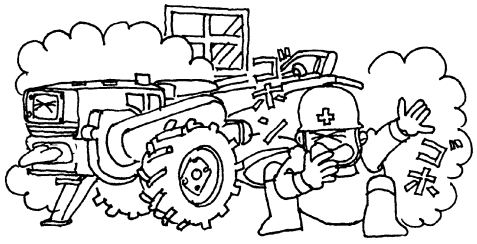
⚠点検・整備及び掃除をする時は……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆点検・整備・掃除は，平坦な場所でエンジンを停止してから行なってください。	機械が動きだし，思わぬ事故を起こします。 
⚠危険 ◆給油，注油，点検時はエンジンを停止し，エンジン回転中やエンジンが熱い間は給油，注油をしないでください。 ◆燃料補給時は，くわえタバコなど火気を近づけないでください。 ●燃料を補給したときは，燃料キャップを締め，こぼれた燃料はきれいにふきとる。 ●エンジン始動前に，給油，注油，各部の点検をする。	燃料などに引火し，ヤケドや火災の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆各部のボルト・ナットのゆるみ，セットピンの脱落，損傷はないか確認してください。 ●クラッチ，レバー関係などの操作部は確実に働くように調整する。	思わぬ事故を引起こす原因となります。 

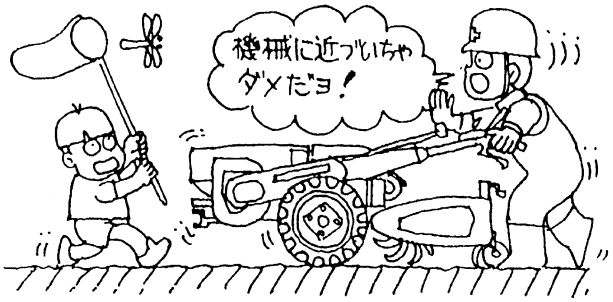
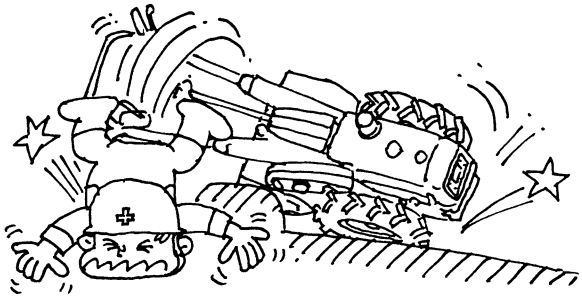
必ず守ってください	→ 守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆電気配線のコードが他の部品に接触していないか，はがれや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。	ショートして，ヤケドや火災の原因となります。
⚠警告 ◆タイヤの空気圧は取扱説明書に記載してある空気圧を守ってください。 ●タイヤの空気は入れすぎない。 ◆タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は使用しないでください。 ◆タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は「お買いあげ先」に相談してください。（特別教育を受けた人が行うように法で義務づけられています。）	タイヤに空気を入れすぎる（空気圧が高すぎる）と，タイヤが破裂し，死傷事故につながることがあります。
⚠警告 ◆エンジン，マフラ，燃料タンクまわりにワラクズやゴミなどが付着していないか作業前に点検し，付着していれば取除いてください。	火災事故を引起こすことがあります。
⚠注意 ◆点検整備に必要な工具類は，適正な管理をし，正しく使用してください。 ◆管理機には，点検調整に必要な工具類を常備しておいてください。	整備不良で事故を引起こすおそれがあります。
⚠注意 ◆点検・整備などで外したカバーなどは，全て取付けてください。 ●カバーは正しく取付ける。	機械に巻き込こまれたりして，傷害事故を起こすことがあります。

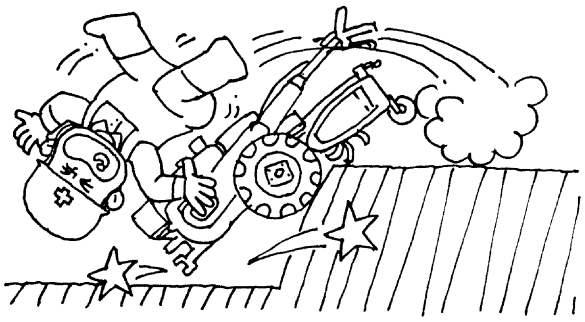
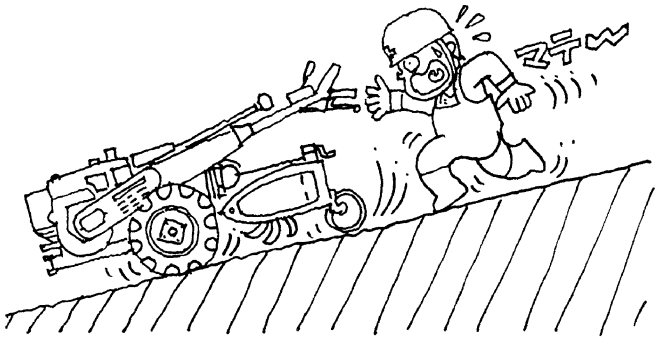
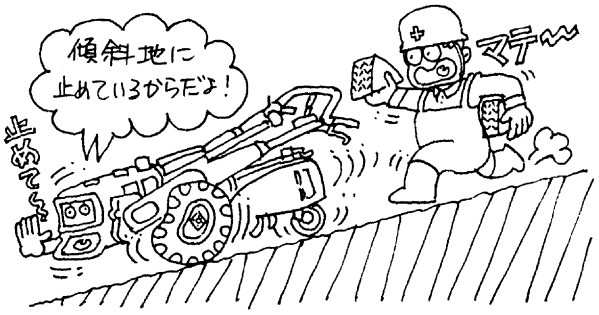
⚠エンジンを始動する時は……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆始動する前に，周囲を確認し，管理機や作業機の周囲から子供等，人を遠ざけてください。	子供等，人が近づくと，傷害事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆始動は正しい姿勢で行なってください。	機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆主クラッチの《切》，変速レバーの《N》（中立），ロータリ変速の《N》（中立）を確認してください。 ◆始動は正しい姿勢で行なってください。 ● 変速レバーが《N》（中立）になっているか手で動かして確認する。 ● 足場の不安定な場所での始動は行わない。やむをえない場合は，機械を固定し，水平な状態で行う。 ● 周囲を確認し，合図してから始動する。	変速やクラッチが入っていると機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆屋内やハウス内等での始動は窓や戸をあけて換気を十分にしてください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。 
⚠警告 ◆暖機運転は，主クラッチを《切》，各変速，ロータリ変速を《N》（中立）にして，平坦な場所で行なってください。	機械が動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。

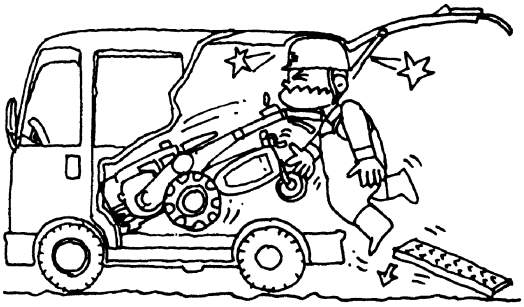
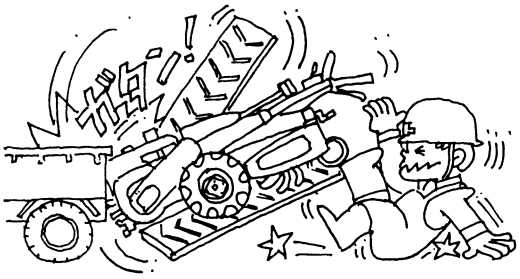
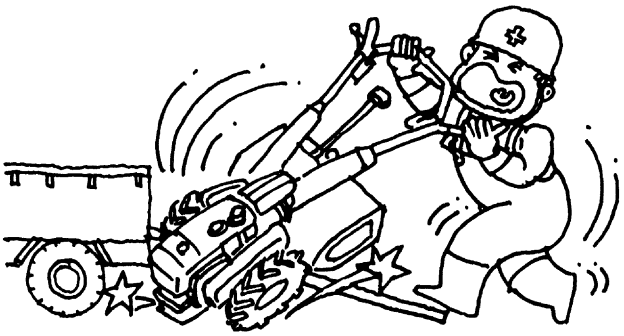
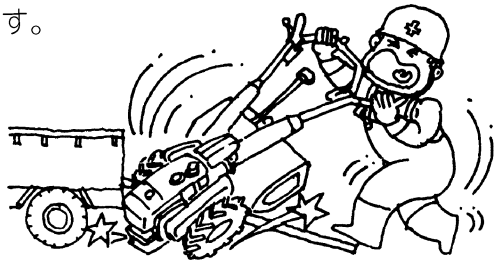
⚠走行をする時は……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆タイヤのセット幅を広げて機体を安定させてください。 ◆ハンドル回動式の場合は正規の位置にセットしてください。	バランスがくずれて，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆発進するときは，機械の回りから人を遠ざけて，低速で発進してください。 ●前後左右を確認し，後進する時は，屋内の支柱等背後に障害物がないことを確認して行う。 ●ロータリ等の作業機を回転させたまま走行しない。	傷害事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆急発進，急停止，急旋回はしないでください。 ●走行は歩くスピードで，凸凹道は低速で行う。 ●旋回するときは，低速で行う。	転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆人や物を機械にのせないでください。 ●道のりが遠くても，その他どんな場合でも，人を作業機の上にのせない。 ◆公道および夜間の移動は自動車にのせて行なってください。	傷害事故の原因となることがあります。 

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆道路の端には寄りすぎないようにしてください。 ●対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。 ●軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない。 ●雨天，雨あがりのときは，低速で慎重に走行する。		路肩がくずれ，横転事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆坂道では主クラッチを操作しないでください。 ◆坂道では主変速レバー，副変速レバーを操作しないでください。 ●坂にさしかかったら，いったん機械を止めて変速を低速に入れ変える。 ●下り坂では，低速でエンジンブレーキを使用して走行する。		エンジンブレーキがきかなくなり事故の原因となります。 
⚠警告 ◆傾斜地や坂道ではサイドクラッチ操作をしないでください。 ●ハンドル操作で旋回する。		サイドクラッチを操作すると反対方向に旋回することがあり，転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆停車，駐車をするときは，平坦な場所に置き，エンジンを停止してください。駐車ブレーキが付いている機械は，駐車ブレーキをかけてください。 ●傾斜地には駐車しない。やむをえず傾斜地に止めるときは機械の安定を確認し，歯止めをする。		機械が動き出して事故の原因となります。 

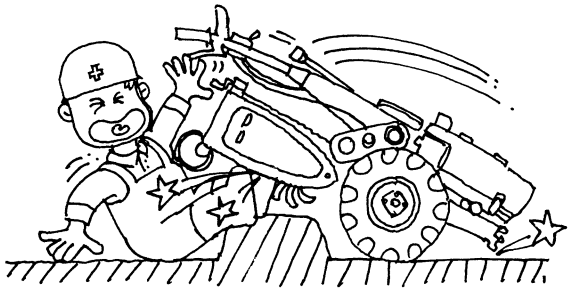
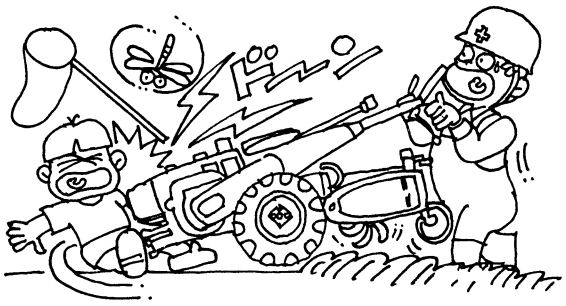
⚠自動車への積込み・積降ろしをする時は……

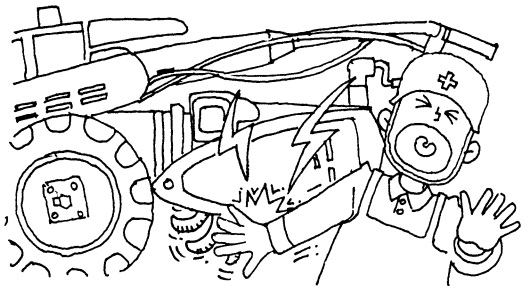
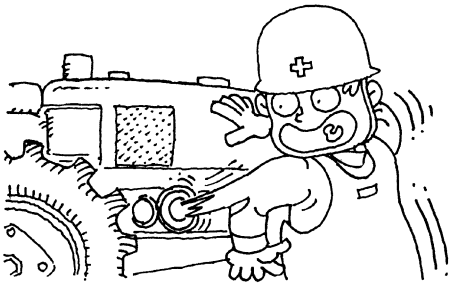
必 ず 守 っ て く だ さ い → 守らないとこんな事故が！

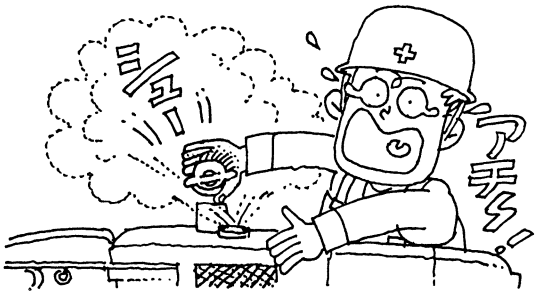
⚠警告 ◆自動車は荷台に天井の無い車を使用してください。 ●荷台から作業機がはみ出さない自動車を使う。 ●自動車は変速を「後進」に入れ，駐車ブレーキをかける。	思わぬ事故を引起こします。 
⚠警告 ◆アユミは，強度，幅，長さ，すべり止め，フックのあるものを使ってください。 ●機械の重量に耐える強度のもの（金属製）を使用する。 ●幅がタイヤ幅以上で，長さが荷台高さの4倍以上あるすべり止め付，フック付のものを使用する。	アユミが外れたりして，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆アユミを荷台に平行にかけてください。 ●アユミは，荷台に対して真っ直ぐにかける。 ●荷台にかけた端が外れないように，フック付のアユミを使用する。 ●積込みは前進，積降ろしは後進で低速で行う。（ただしタイヤを装着してない小型の機械はエンジンを停止し，積込みは，後進方向で引き上げ，積降ろしも後進方向で引き降ろします。） ●機械の回りに人を近づけない。	バランスがくずれて，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆アユミの上ではサイドクラッチを操作したり主クラッチを切らないでください。 ●途中で操作する必要がないよう左右位置や平行を確認し，低速で行う。 ●車軸にロータを装着しているときはタイヤに交換する。 ●水田車輪や耕うん爪・尾輪等をひっかけないようにする。	進路変更すると急旋回して，転倒事故を起こすことがあります。 

⚠ほ場で作業をする時は……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

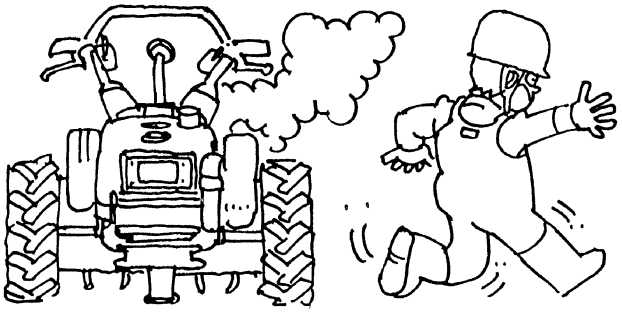
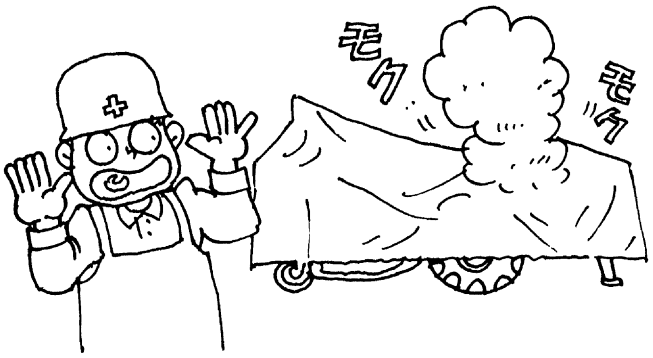
⚠警告 ◆急傾斜，溝越え，高あぜのあるほ場への出入りはアユミを使ってください。 ◆あぜ越えは低速であぜに対して直角に行なってください。 ●上りは前進，下りは後進で足元を確認しながら低速で行う。 ●あぜがくずれないか確認し，ゆっくり行う。	バランスをくずしたりして，転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆ロータリ等の作業機を回転させたままほ場への出入りをしないでください。 ●耕うん時以外はロータリ等の作業機を停止する。	思わぬ事故となることがあります。 
⚠警告 ◆作業中は，機械のそばに人を近づけないようにし，わき見運転や手ばなし運転をしないでください。	傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆旋回する時は周囲や足元を確認しながらあぜの上にあがったり，土手ぎりぎりで旋回しないでください。 ●あぜ際での作業は枕地を十分にとって余裕をもって旋回する。 ●足にあった長ぐつ，田から足が抜けやすいくつを着用する。	傷害事故を引起こすことがあります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆後進するときは，エンジン回転を下げて背後の障害物の位置を確認しゆっくりと行なってください。 ●ハンドルがはね上がらないようにしっかりと握って低速で後進します。	後進するときは，車輪の回転でハンドルがはね上がります。とくに水田車輪の場合はかなりの力で持ち上がり，思わぬ事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆ロータリ等に巻付いた草や土を取除く時やロータリ爪の交換をするときは，平坦な場所でエンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。	巻き込まれたりして傷害事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆ＰＴＯ軸を使用しないときは，ＰＴＯ軸にグリスを塗り，キャップを取付けてください。	巻き込まれたりして傷害事故を引起こすことがあります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆急傾斜地では作業をしないでください。	転倒事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆作業中途で点検するときは，高温部に触れないでください。 ● 点検，掃除はエンジンを停止し，高温部は冷えるまでは直接触れない。 ● 取外したカバーは全て取付けてから作業を開始する。	ヤケドすることがあります。 
⚠警告 ◆ハウスや小屋の中で作業するときは，背後や支柱際の障害物を確認しながら行なってください。 ● 支柱やカモイに頭を打ったりハンドルを引っかけたりしないようにする。 ● 支柱際の作業での旋回はハンドルを壁と反対側の広い方に回して旋回する。	機械と支柱の間にはさまれたりして傷害事故を引起こすことがあります。 

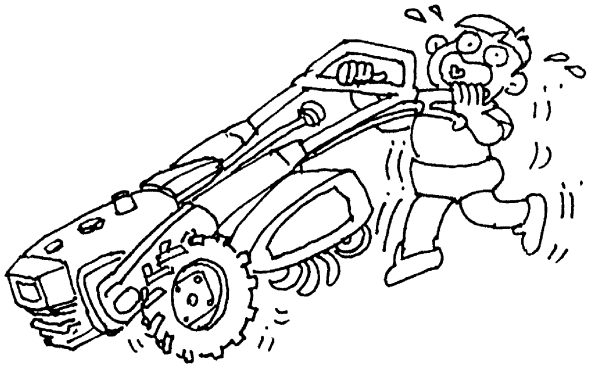
⚠1日の作業が終わったら……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆作業が終了したら，平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い，掃除をしてゴミなどを取除いてください。 ●エンジン・マフラ・燃料タンク回りのワラクズを除去・掃除する。 ●掃除後注油個所に注油する。	火災の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆シートカバーをかける場合は，マフラやエンジンが冷えてから行なってください。	火災事故を引起こすことがあります。 

⚠長期格納する時は……

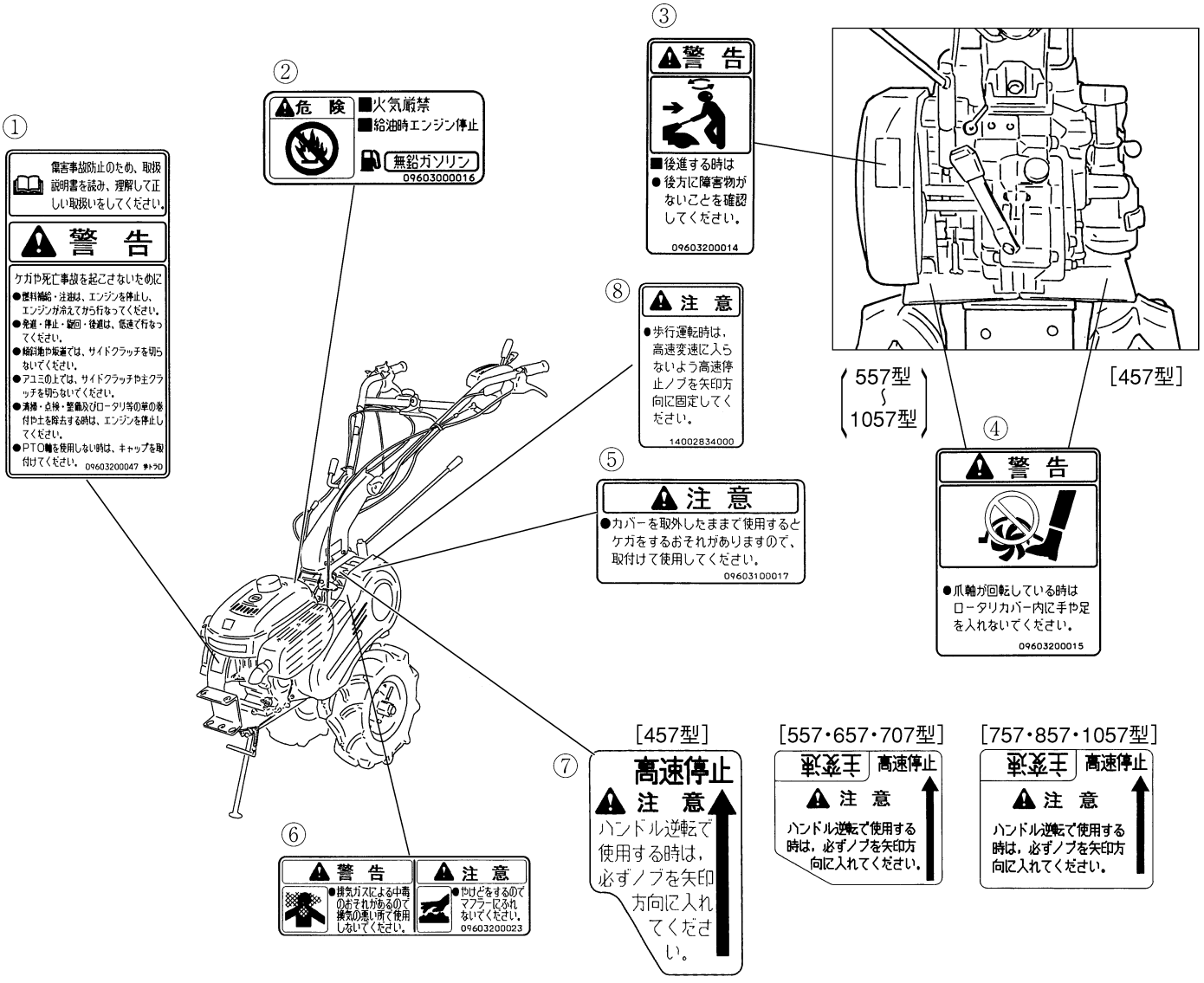
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆各部を水洗いして，平坦なところでスタンドを出し，機械を安定させて格納してください。 ● 故障個所，爪の摩耗があれば，早目に修理，交換する。 ● ボルトやナットがゆるんだ状態であれば，直ちに締めつける。 ● タイヤに歯止めをし，変速を「低速」に入れておく。	思わぬ事故の原因になることがあります。 
⚠警告 ◆シーズン終了後には定期点検を受けてください。 ● 1年ごとに定期点検・整備を受け，各部の保安を確保してください。 ◆燃料を抜取ってください。 ● 燃料腐食で気化器内部を腐食させるので燃料コックを「閉」にし，気化器下側のプルドレンから，気化器内の燃料を抜取る。	

2．表示ラベルについて

この機械には各運転装置の近くに各々の安全な取扱い方について説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

また，機械に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを「**お買いあげ先**」に注文して購入し貼り替えてください。

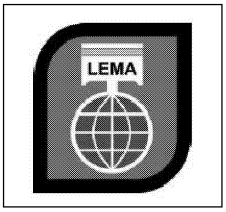


No.	部 品 名 称	部 品 番 号	備 考
①	ケイコクラベル　ホトラD	0960 3200 047	
②	キケンラベル　ガソリン	0960 3000 016	
③	ケイコクラベル　コウホウ	0960 3200 014	
④	ケイコクラベル　タイン	0960 3200 015	
⑤	チュウイラベル　カバー	0960 3100 017	
⑥	ケイコクラベル　ハイガス	0960 3200 023	
⑦	トリアツカイマーク	1400 2816 000	457型
		1400 2826 000	557・657・707型
		1401 2821 000	757・857・1057型
⑧	トリアツカイマーク	1400 2834 000	

地球環境を守るために

このたび（社）日本陸用内燃機関協会（陸内協）が環境保全のために定めた排出ガス自主規制の適合エンジンを搭載しました。

この自主規制は、小型汎用火花点火エンジンの排出ガス中の炭化水素（HC)、窒素酸化物（NOx)、及び一酸化炭素（CO）を低減するためのもので、識別のため陸内協で決定した右図の適合ラベルをエンジンファンカバー等に貼付けています。



使用期間中は、次の事項を守ってください

１．自主規制適合ラベルは剥がさないでください。

２．エンジンの点検整備は、取扱説明書にしたがって実施してください。
気化器の調整、部品交換が必要な場合には、「お買いあげ先」にご相談ください。

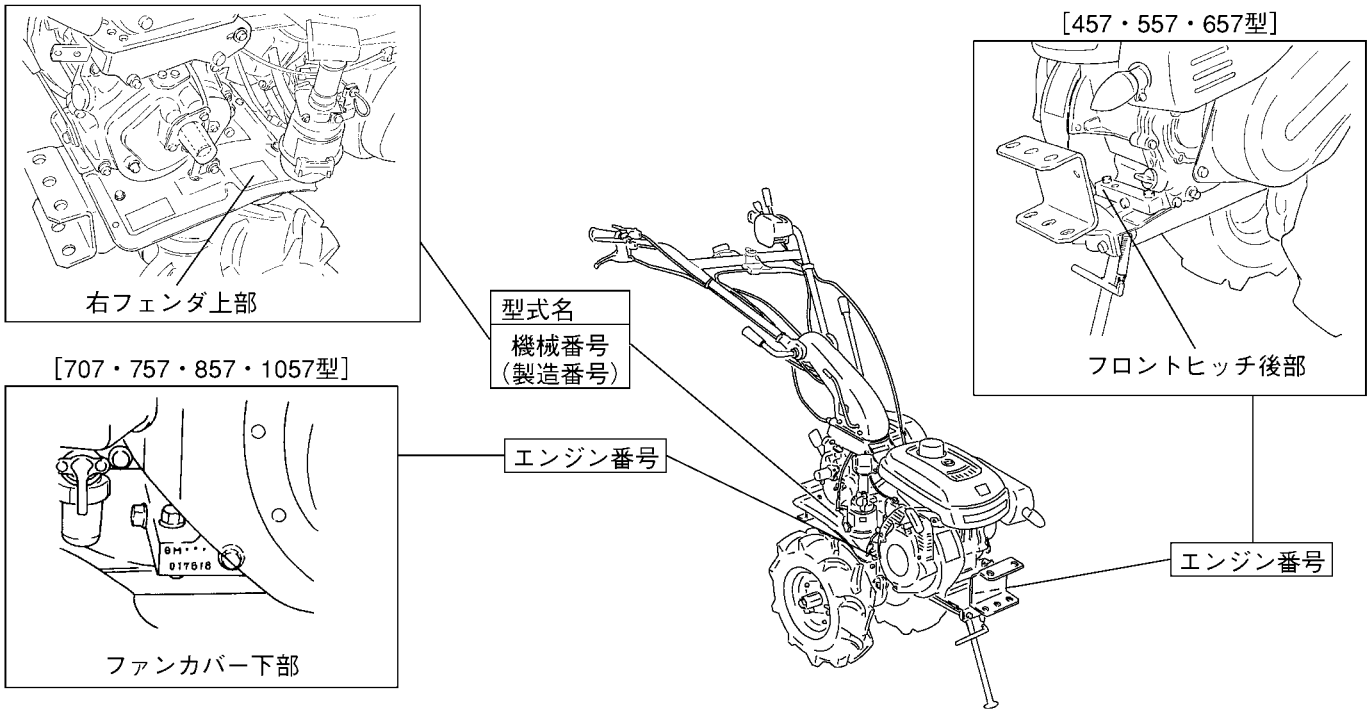
本エンジンは、排出ガスの量が規定値内になるように管理出荷していますが、運転中の吸入空気と燃料の混合比に影響する気化器の調整、整備不良、不適切な部品交換がされた場合、排出ガス量は規定値を外れることがありますので注意願います。

ご使用まえに

1．保証とサービスについて

・この機械には保証書が添付されていますので，ご使用まえによくお読みください。

・この機械のサービスについてのお問い合わせや部品などのご用命のときは「**お買いあげ先**」にご相談ください。その際「**型式名**」・「**機械番号（製造番号）**」と「**エンジン番号**」をお知らせください。



・補修用部品の供給年限について

・この製品の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後９年といたします。
ただし，供給年限内であっても，特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。

・補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

機械の使用目的について

・機械は，**ほ場でのロータリ耕うん作業，農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください。**使用目的以外の作業や改造などは行わないでください。

・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造したりした場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。詳細は保証書をご覧ください。

⚠警告
◆機械を使用目的以外の作業に使用しないでください。
◆機械を改造しないでください。改造すると本来の機能を発揮できないばかりか，人身事故の原因になることがあります。
◆トレーラ作業には使用しないでください。

2．仕様（装備）について

・主な仕様（装備）は次のようになっています。
仕様の異なる製品の場合はつど［○○型］表示で型式を示し追加説明していますので，お買いあげの機械の型式をお確かめのうえ，お間違えのないようにお読みください。

・お買いあげの機械の型式と主な仕様の違いを次の表でお確かめください。

型式名	仕様／区分		エンジン最大出力 kW {PS}	タイヤサイズ	ホイルチューブ六角軸対辺	変速段数 前進	変速段数 後進	サイドクラッチ	駐車ブレーキ	ハンドルワンタッチ上下レバー
455型	MM457	S	3.1 {4.2}	100／85D6	32㎜	6（ベルト掛替）	2（ベルト掛替）	有	無	無
		SJ		タイヤ無						
		SG		100／85D6	35.3㎜					
		SGJ		タイヤ無						
555型	MM557	S	4.0 {5.5}	100／85D6	32㎜	6	4			有
		SL		4.00－7						
		SG		100／85D6	35.3㎜					
		SGL		4.00－7						
		SGJ		タイヤ無						
655型	MM657	S	4.6 {6.3}	4.00－7	32㎜					
		SD			35.3㎜					
		SG								
707型	MM707	S	5.4 {7.4}			4	4		有	
855型	MM757	S	5.5 {7.5}			6	4			
		SB								
		SL		4.00－8						
	MM857	S	6.3 {8.5}							
		SB								
		SP		17×8.00－8						
1055型	MM1057	S	7.7 {10.5}	4.00－9						
		SB								
		SP		17×8.00－8						

・区分記号の説明

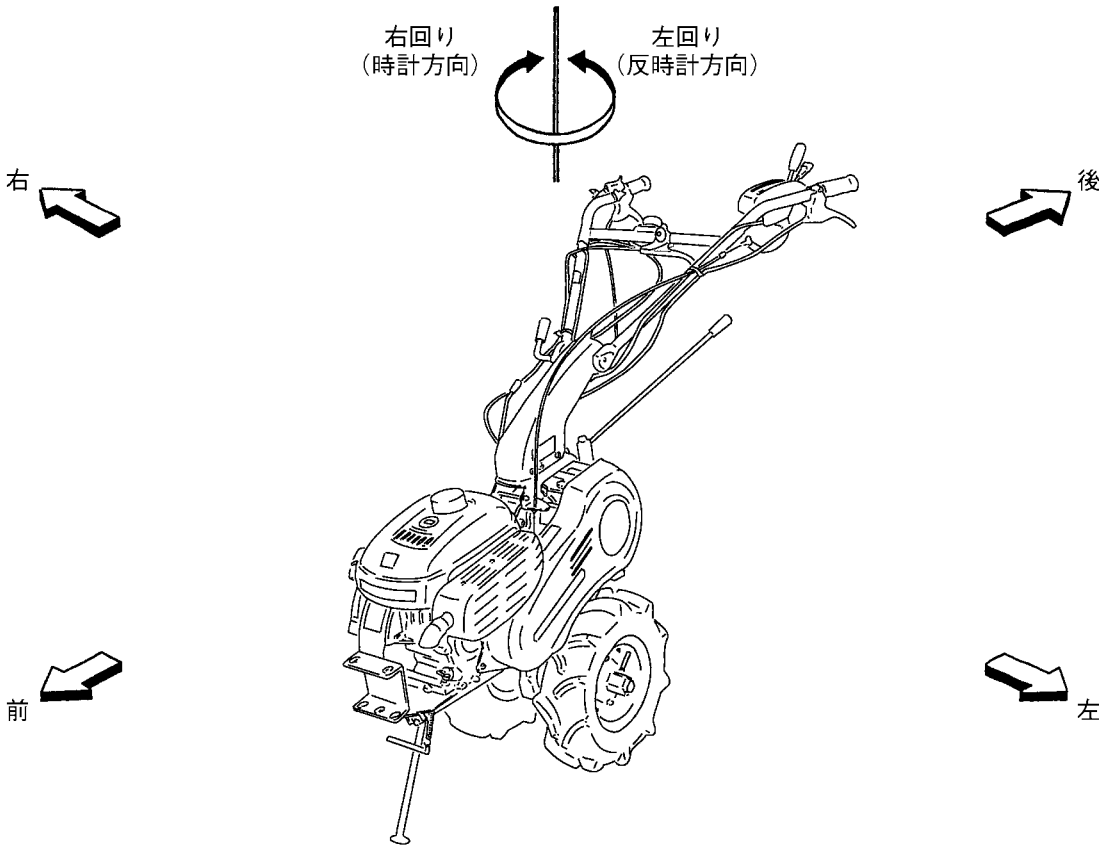
S＝サイドクラッチ有　　G＝ホイルチューブ対辺　35.3㎜　　J＝タイヤ無　　L＝大径タイヤ

P＝広幅タイヤ　　D＝車軸六角対辺26㎜　　B=発電コイル有（作業機用）

・1057型……車軸耕うん作業（代掻，角ロータ，深耕用ロータ等）はできません。

3．用語について

❶ この取扱説明書に使用している「**前後・左右・右回り・左回り**」などの用語は図示のように決めています。



❷ **型式別表示**

この取扱説明書はMM707を基本に説明してあります。MM707と取扱いかたが異なる場合は，そのつど［**457型**］…［**1057型**］等で記載して追加説明しています。

型式区分	本文表示
MM457	［457型］
MM557	［557型］
MM657	［657型］
MM707	［707型］
MM757	［757型］
MM857	［857型］
MM1057	［1057型］

❸ **マークの説明**

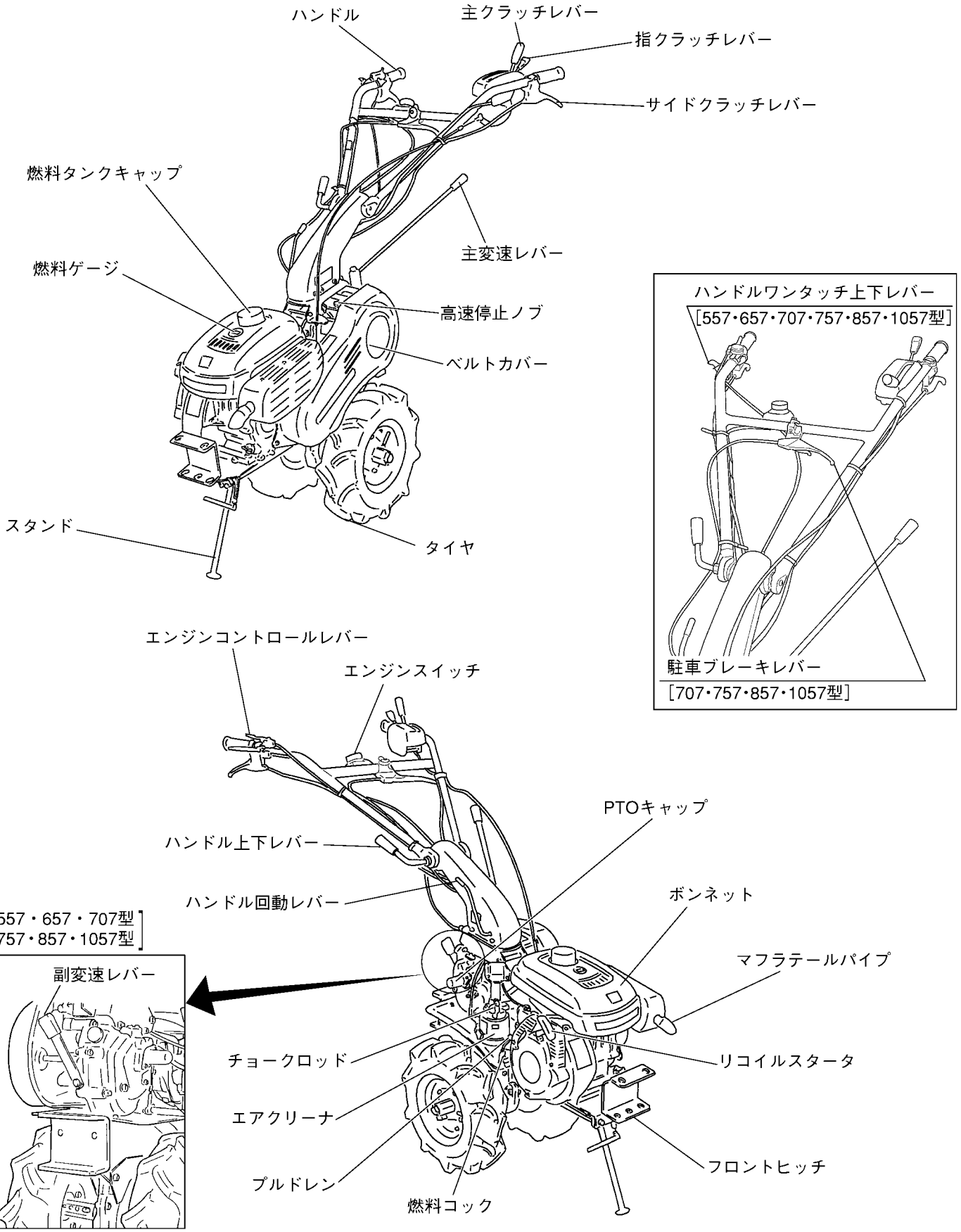
この取扱説明書ではその都度守っていただきたい事柄を次のマークを使用して説明しています。

・ ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 ……安全上重要な事項を３段階に分けて説明していますので必ず読んでください。

・ **取扱いのポイント** ……機械の性能を最大限に発揮するための説明です。守らないと故障の原因になることもあります。

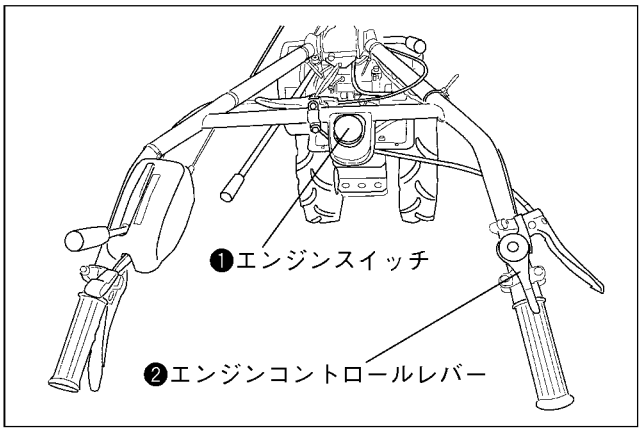
各部のはたらき

1．各部の名称



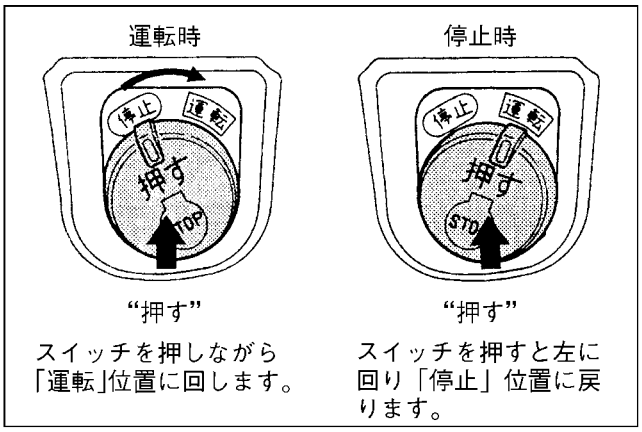
2．運転装置の取扱い

1．エンジンコントロール関係



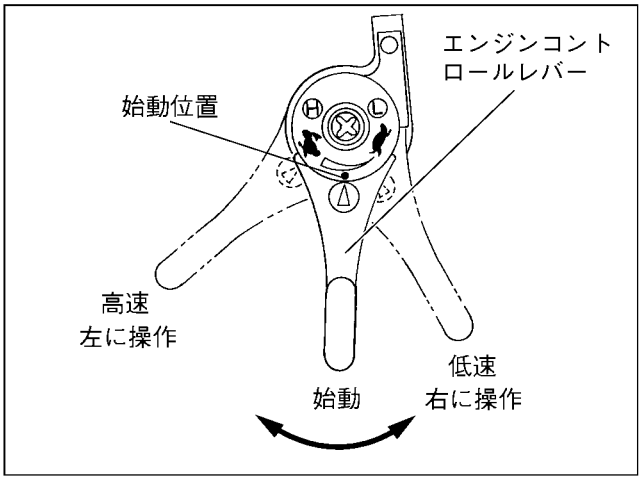
❶ エンジンスイッチ

エンジンを始動するときは押しながら右に回し，停止する時はスイッチを押します。



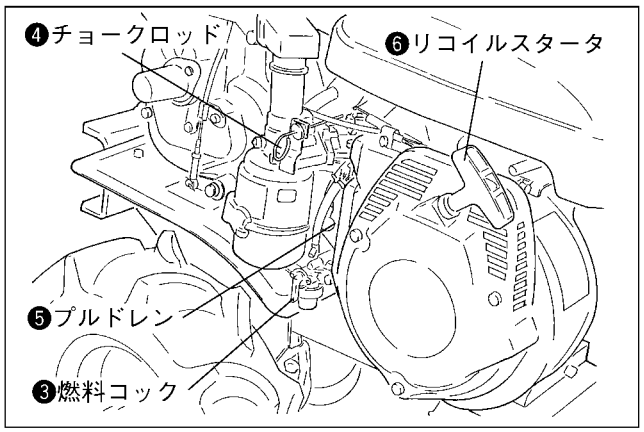
❷ エンジンコントロールレバー

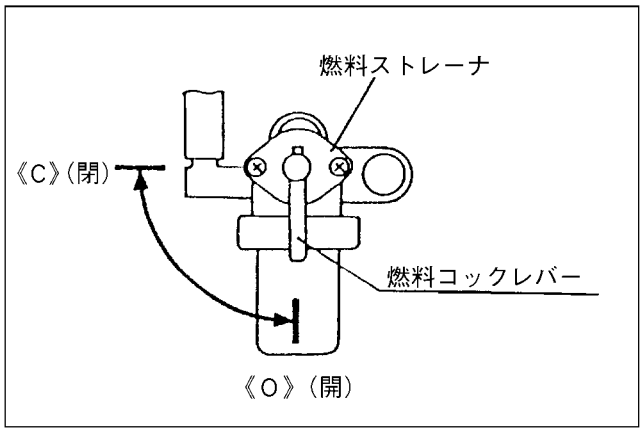
・《🐢》……右に操作すると「**低速**」になります。
・《🐇》……左に操作すると「**高速**」になります。
・《●》……エンジン始動時は「**中間**」にします。



❸ 燃料コック

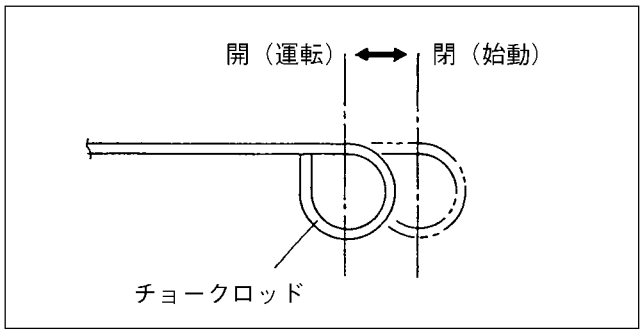
タンク内の燃料を出したり，止めたりするときに操作します。





❹ チョークロッド

エンジンを始動するときに引きます。



❺ プルドレン

気化器内の燃料を排出するときに使用します。燃料コックを《C》(閉) 位置にしてから引きます。

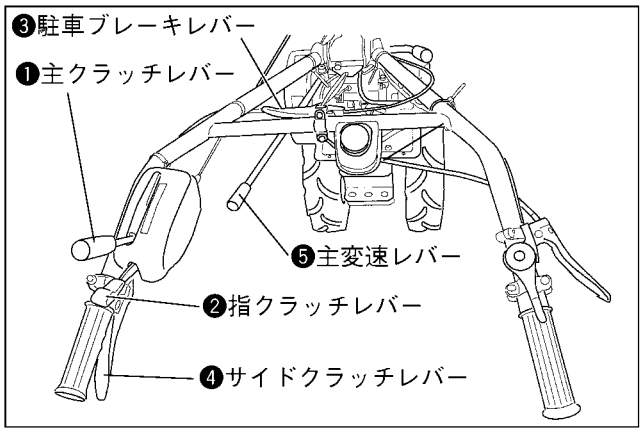
・流れ出る燃料は容器に受けます。

❻ リコイルスタータ

エンジンを始動するときに使用します。

リコイルスタータの握りを勢いよく引いてエンジンを始動します。

2．運転装置関係

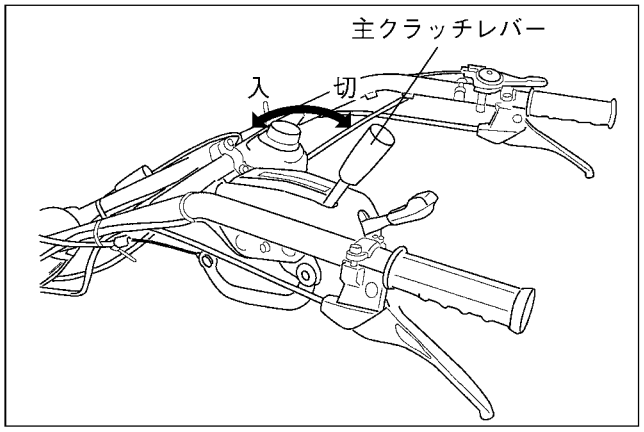


❶ 主クラッチレバー

車軸（タイヤ）およびPTO軸（動力取出し軸）の動力を《**入**》《**切**》するときに操作します。

クラッチ《**入**》操作は主クラッチレバーを前方に倒します。

クラッチ《**切**》操作は主クラッチレバーを手前に引きます。



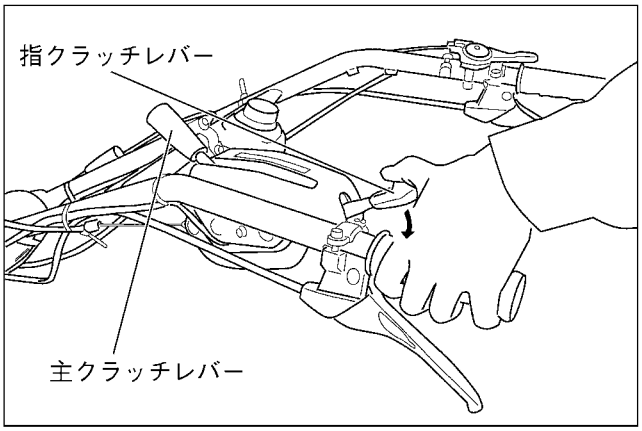
取扱いのポイント

- **主変速レバーを操作するときは，主クラッチレバーを《切》にしてください。**
- **主クラッチレバーを《入》にするときは，駐車ブレーキレバーを《切》にしてください。**
- **エンジンを始動するときは主クラッチレバーを《切》にしてください。**

❷ 指クラッチレバー

ハンドルを握ったままワンタッチで主クラッチを操作できます。レバーを押すと主クラッチは《**入**》となり，エンジンの動力をミッションに伝えます。もう一度押すと《**切**》となります。

※主クラッチレバーでもクラッチ《**入**》《**切**》が行えます。

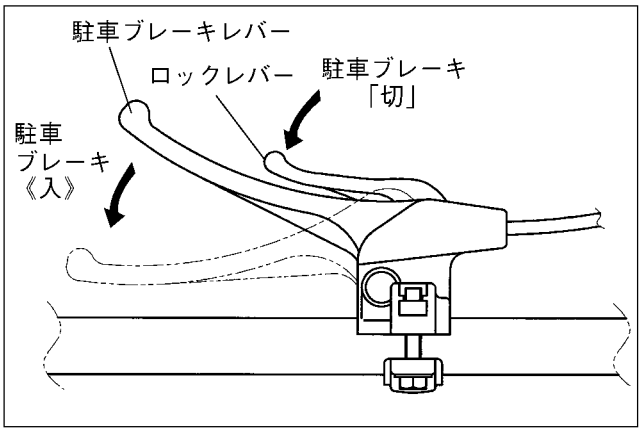


❸ 駐車ブレーキレバー［707・757・857・1057型］

駐車ブレーキを《**入**》・「**切**」するときに操作します。

駐車ブレーキ《**入**》操作は駐車ブレーキレバーをロックレバーが作用するまで握ります。

駐車ブレーキ「**切**」操作はロックレバーを手前に引きます。



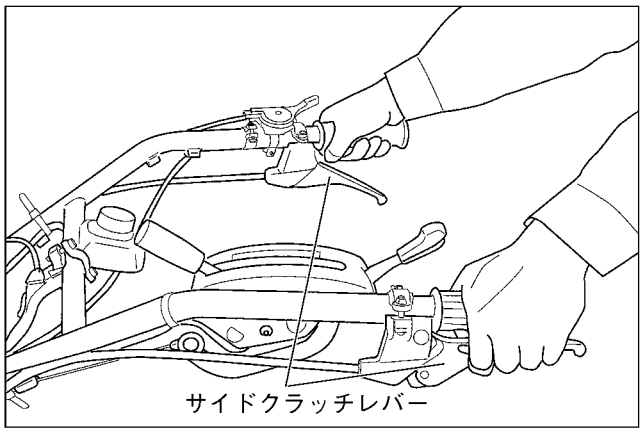
❹ サイドクラッチレバー（右），（左）

⚠警告 傷害事故防止のために

◆道路走行，アユミ使用時，傾斜地や坂道ではサイドクラッチ操作をしないでください。サイドクラッチを操作すると反対方向に旋回することがありますので，ハンドル操作のみで旋回してください。

◆低速作業以外ではサイドクラッチ操作をしないでください。

進行方向を変えるときに使うレバーです。進みたい方向のレバーを握り方向を変えます。



取扱いのポイント

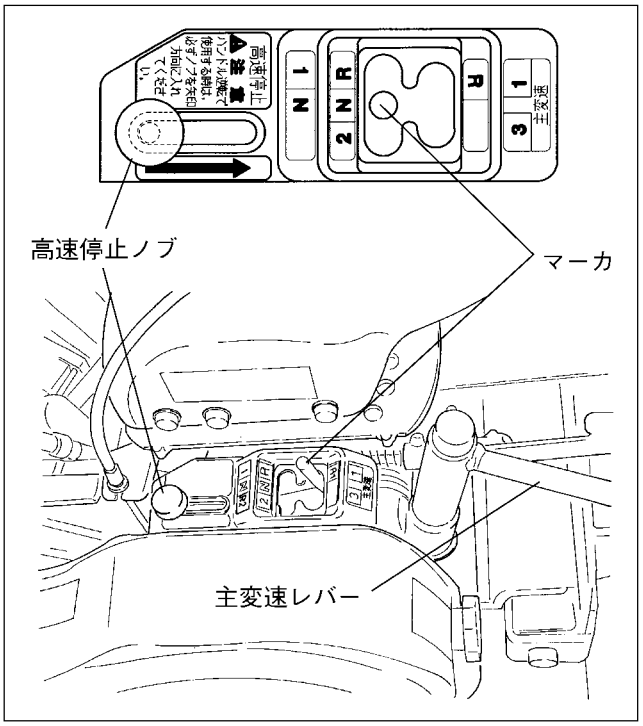
- サイドクラッチを操作するときは，エンジン回転を低速にしてください。
- 深耕用ロータでの耕うん中は，サイドクラッチ操作はしないでください。ロータが土から出てから操作してください。
  （1057型では，深耕用ロータ作業はできません。）

❺ 主変速レバー

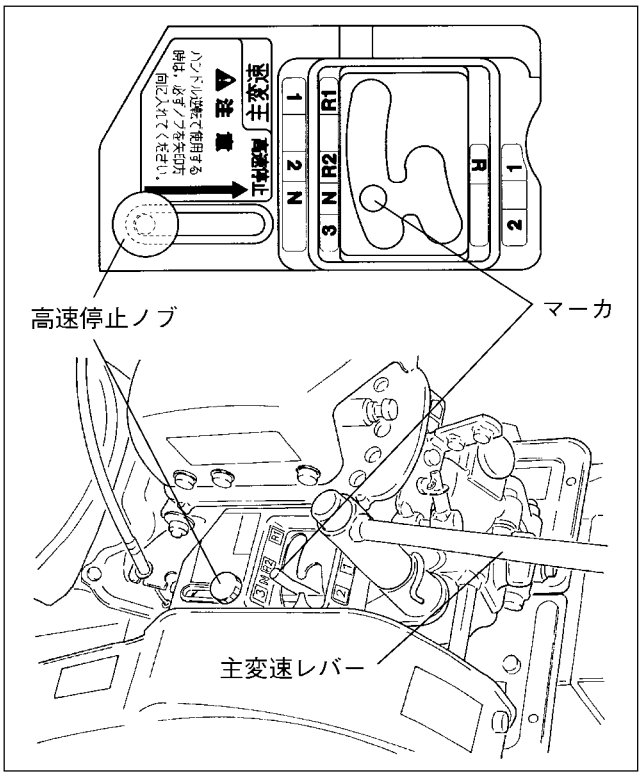
・前進方向3段（707型は2段），後進方向2段（457型は1段・707型は2段）の変速ができます。

・マーカの位置が変速位置です。

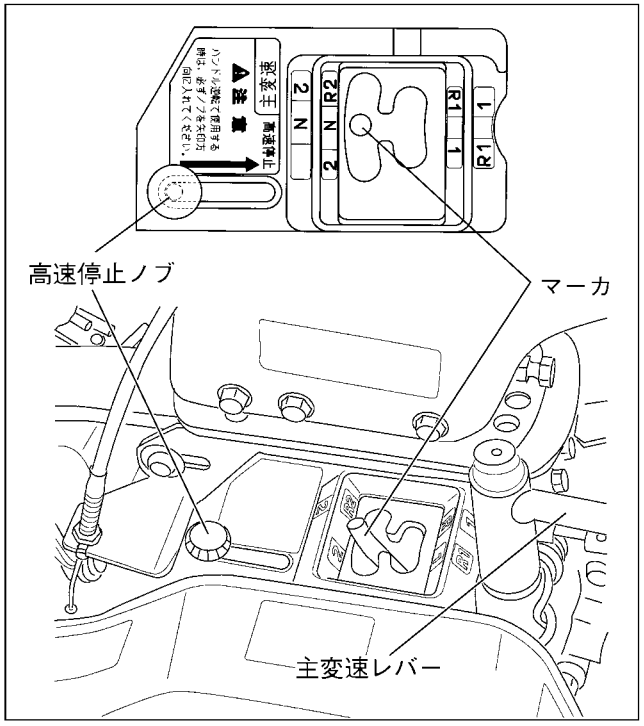
［457型］（前進 3 段，後進 1 段）



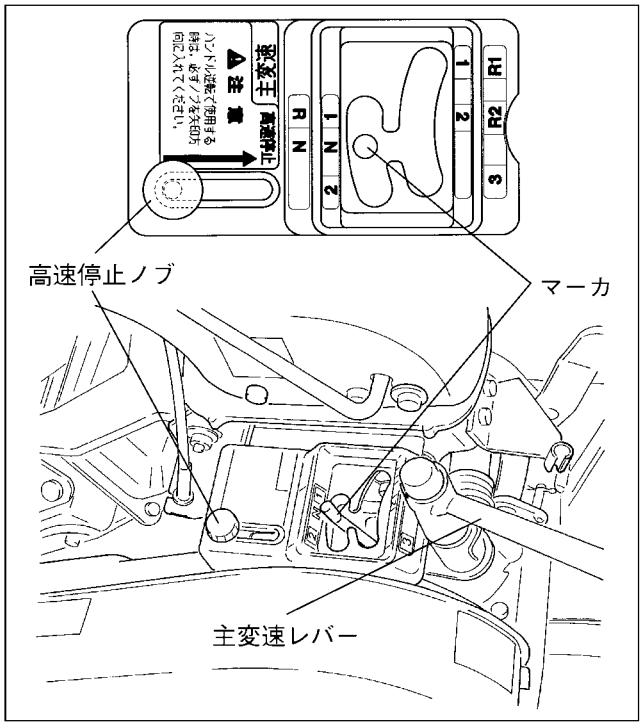
［557・657型］（前進 3 段，後進 2 段）



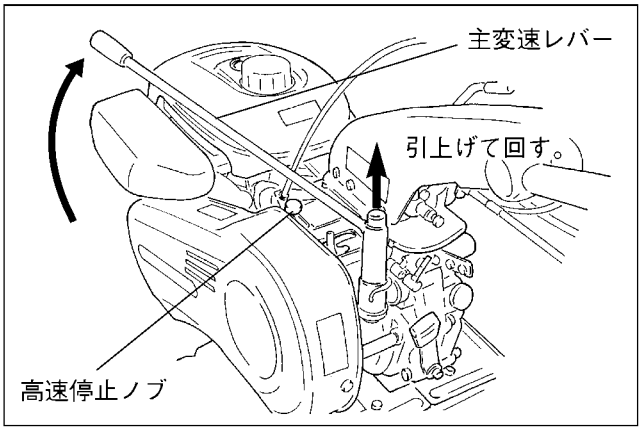
［707型］（前進 2 段，後進 2 段）



［757・857・1057型］（前進 3 段，後進 2 段）

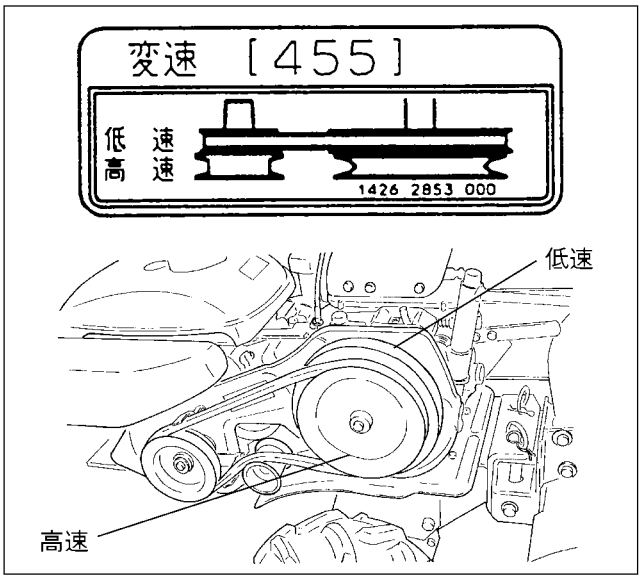


・ハンドルを回して逆向きで作業を行う時は，主変速レバーも逆向きにします。主変速レバーの根元を持ち，引上げてから回します。

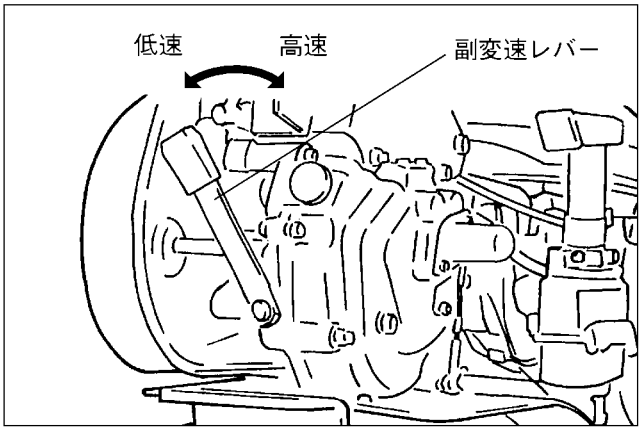


❻ 副変速

・［457型］はベルトの掛替で《低速》《高速》 2 段の切替ができます。



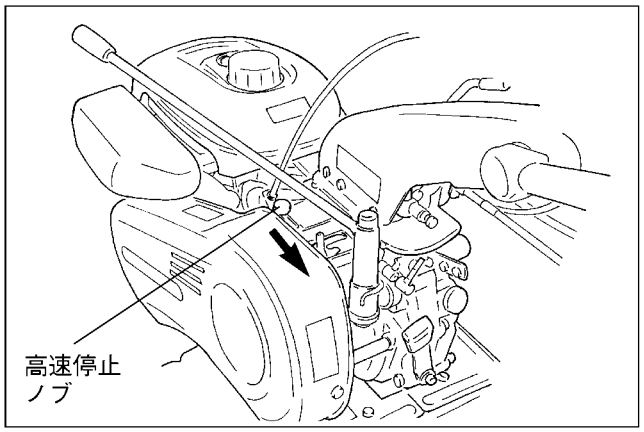
・［557・657・707・757・857・1057型］は副変速レバーで《低速》《高速》 2 段の切替ができます。

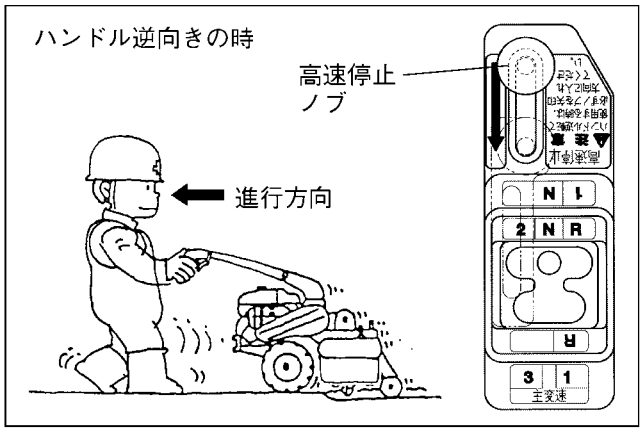


❼ 高速停止ノブ

主変速レバーの操作を一部規制するノブです。

・ハンドルを回して逆向きで作業を行なうときは、高速停止ノブをゆるめ《**高速停止**》位置で固定します。



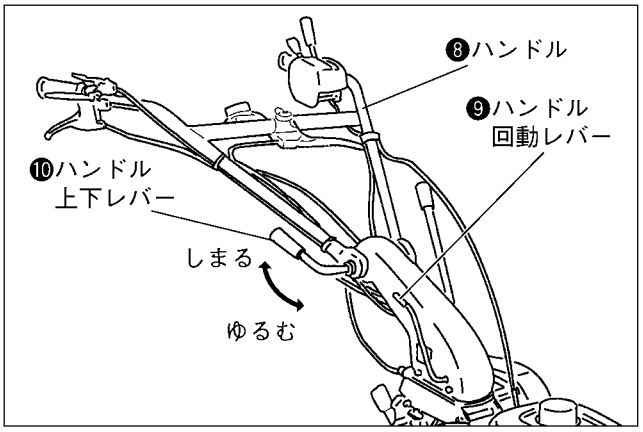


❽ ハンドル

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ハンドルを逆向きにする時はノブをゆるめ《高速停止》の位置で固定してください。《高速停止》の位置にしておかないと，機械が作業者に向って高速で発進し，思わぬ事故になることがあります。

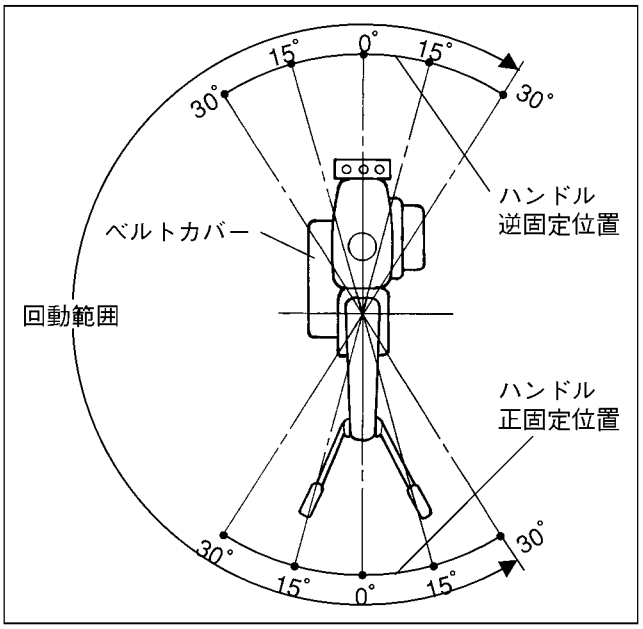
ハンドルは作業の種類,作業者に合わせて左右・逆向き・上下に調節できます。



❾ ハンドル回動レバー

・ハンドル正位置，逆向き共，左右にそれぞれ2段の調節ができます。(固定位置は図の10個所です)

・ハンドル回動レバーを押し下げてハンドルを使いやすい位置まで回動します。ハンドル回動レバーから手を離しハンドルをさらに回すとレバーが戻りハンドルが固定されます。



取扱いのポイント

- サイドクラッチを握ったままでハンドル回動レバーは押せません。
- ハンドルを回動する時は，ベルトカバー側に回動してください。反対側には回動しないでください。無理に回動しようとすると回動規制ストッパが破損することがあります。
- ハンドル回動途中では，回動レバーを戻さないでください。

⑩ ハンドル上下レバー

⚠警告 傷害事故防止のために

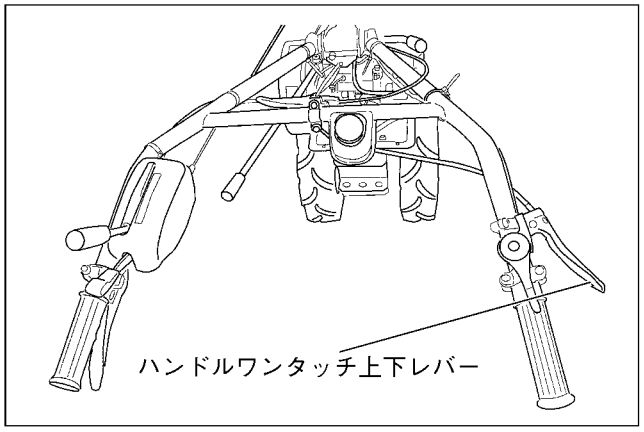
◆ハンドルの高さ調節時はスタンドを立てる等してハンドルから手を離しても機械が安定している状態にしてください。

・ハンドルの高さ調節はハンドル上下レバーをゆるめ，使いやすい高さに設定します。
・設定後レバーをしめてハンドルを固定します。

⑪ ハンドルワンタッチ上下レバー

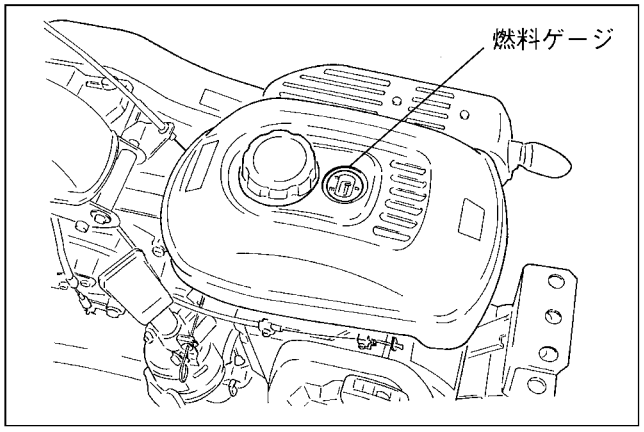
[557・657・707・757・857・1057型]

・ハンドルの高さを大きく動かす時に使用します。上段，中段，下段の3段の調節ができます。
・ハンドルワンタッチ上下レバーを握りハンドルを動かします。レバーを離してさらに動かすと固定位置で固定されます。



⑫ 燃料ゲージ

燃料の残量をボンネット上面の燃料ゲージで確認します。

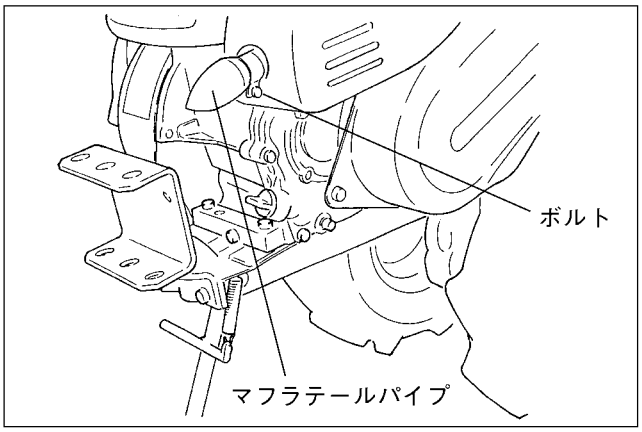


⑬ マフラテールパイプ

⚠警告 ヤケドや傷害事故防止のために

◆エンジンまわりの調整は，エンジンが冷えてから行なってください。

マフラの排気方向を変えることができます。作業に合わせてマフラテールパイプのボルトをゆるめて方向を変えます。



運転のしかた

1．運転まえの点検

安全作業のために毎日の運転まえに「**運転まえの点検表**」を参考に点検してください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検する時には機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止してから行なってください。

⚠危険 ヤケドや火災防止のために

◆エンジン回転中やエンジンが熱い時は給油・注油をしないでください。
◆燃料補給時は火気に近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
◆燃料補給した時は燃料キャップをしめ，こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
◆燃料タンクや燃料ホースの老化や，傷によるもれなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し，傷やもれがあれば交換してください。

「運転まえの点検表」

点検個所			処置
運転まえに	エンジンクランクケースの油量	・給油栓にあるレベルゲージの上下線の間に油面がありますか。	・油面が給油栓レベルゲージの上限になるまで補給する。(27ページ参照)
	燃料ストレーナ	・水やゴミがたまっていませんか。 ・ネットの目詰まりはありませんか。	・掃除する。(5，29ページ参照)
	燃料タンク	・作業に必要な燃料がありますか。	・無鉛ガソリンを補給する。 (27ページ参照)
	エアクリーナ	・エレメントは汚れていませんか。 ・オイルは汚れてあませんか。 ・オイルはレベルラインまでありますか。	・掃除する。 ・オイルをレベルラインまで交換又は補給する。(28，29ページ参照)
	リコイルスタータの吸気口	・吸気口の目詰まりはありませんか。	・掃除する。(30ページ参照)
	燃料ホース	・燃料もれはありませんか。 ・老化したり，傷がついていませんか。 ・継手部のクランプはゆるんでいませんか。	・ホースを交換する。(30ページ参照) ・クランプを交換して，しっかりと固定する。
	エンジン，マフラ，燃料タンク周囲	・ワラクズ等のゴミがたまっていませんか。	・掃除する。
	ハンドル上下レバー	・レバーはゆるんでいませんか。 ・菊座は合っていますか。	・菊座に合わせレバーを締付ける。 (10，20ページ参照)
	高速停止ノブ	・《**高速停止**》位置に固定してありますか。	・《**高速停止**》位置に確実に固定する。 (9，22，23ページ参照)
	作業機	・作業機が確実に固定されていますか。 ・作業部が摩耗していませんか。	・作業機の取扱説明書を参照する。
	各部の注油	・オイルさしで行います。	・適量の注油をする。 (26，28ページ参照)
エンジンを始動して	主クラッチレバー 指クラッチレバー	・ゆっくりとレバー操作をした時正常に作動しますか。	・異常個所を調べ処置する。 (6，15，31ページ参照)
	サイドクラッチレバー	・ゆっくりとレバー操作をした時正常に作動しますか。	・異常個所を調べ処置する。 (7，16，32ページ参照)
	エンジンコントロールレバー	・ゆっくりとレバー操作をした時正常に作動しますか。	・異常個所を調べ処置する。 (5，15，33，34ページ参照)
	エンジンスイッチ	・エンジンスイッチを押した時エンジンが停止しますか。	・異常個所を調べ処置する。 (5，16ページ参照)
	駐車ブレーキレバー	・レバーを操作したときにブレーキが入り，切りできますか。	・異常個所を調べ処置する。 (6，16，33ページ参照)

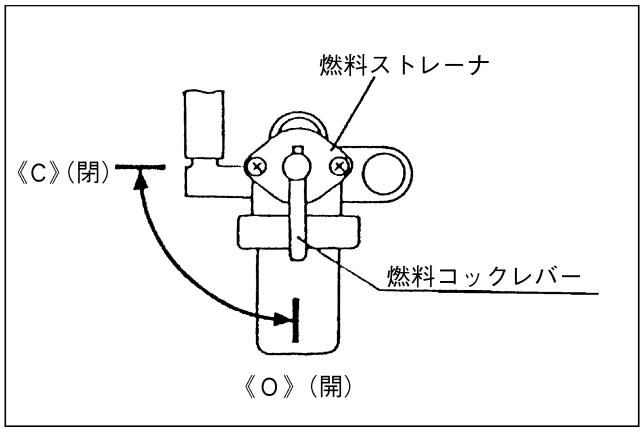
2．エンジンの始動と停止

⚠警告 傷害事故防止のために

◆機械を平坦な広い場所に置き，マフラ，テールパイプ付近の燃えやすいものは取除いてください。
◆ハンドルを離しても機械が動かないようにスタンドまたは作業機で安定させてください。
◆点検等で取外したカバー類はすべて取付けてください。
◆エンジンを始動するときは，主変速レバーを「中立」にし主クラッチレバーを《切》にしてください。主クラッチレバーを《切》にしないとエンジンは始動しません。
◆マフラ排気口付近に燃えやすいものを置かないでください。
◆屋内やハウスでの始動は窓や戸を開けて換気を行い，排気ガス中毒にならないようにしてください。
◆マフラやエンジンには冷えるまで触れないでください。熱いときに触れると「やけど」をすることがあります。
◆リコイルスタータの握りを引くときにプラグキャップや高圧コードに触れないでください。触れると「感電」することがあります。

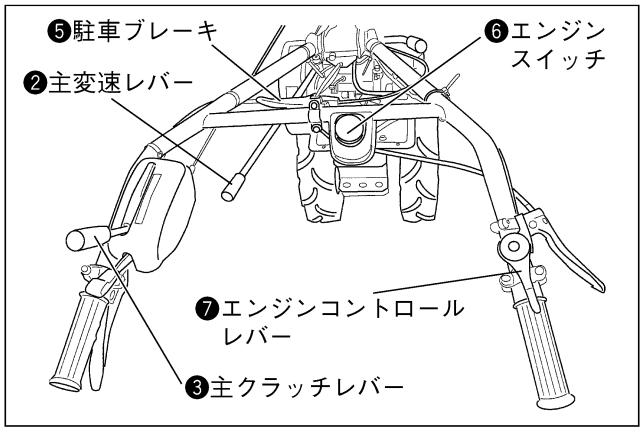
1．エンジン始動のしかた

❶ 燃料ストレーナの燃料コックレバーを《O》（**開**）位置にします。



❷ 主変速レバーを「**中立**」にします。

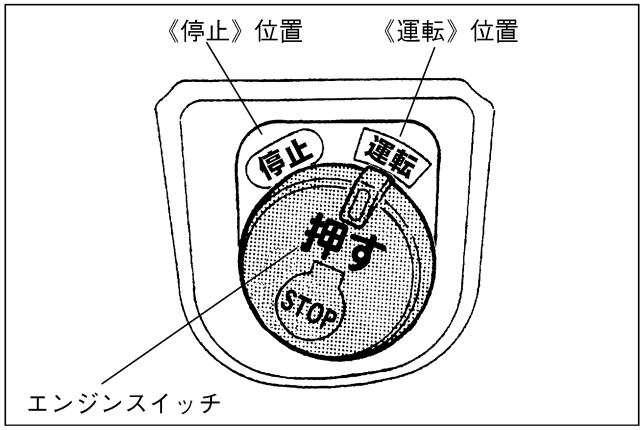
❸ 主クラッチレバーを《**切**》にします。



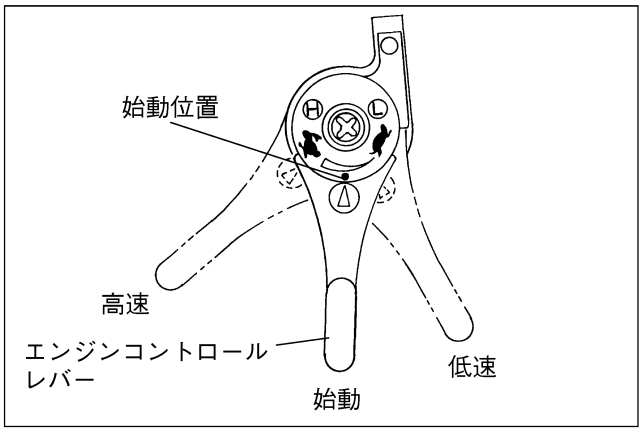
❹ ロータリ装着型式では，ロータリクラッチを《**切**》にします。

❺ 駐車ブレーキ装備機は駐車ブレーキを《**入**》にします。

❻ エンジンスイッチを《**運転**》位置にします。



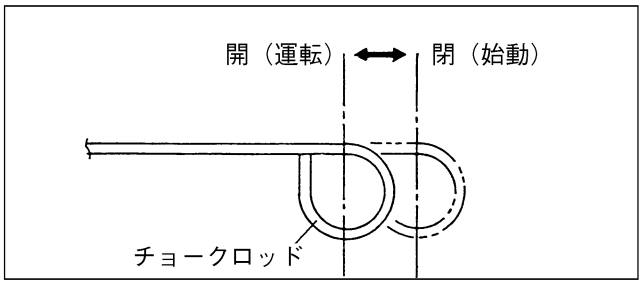
❼ エンジンコントロールレバーを「**始動**」位置《●》印部にします。



❽ チョークロッドをいっぱい引きます。(**全閉**)

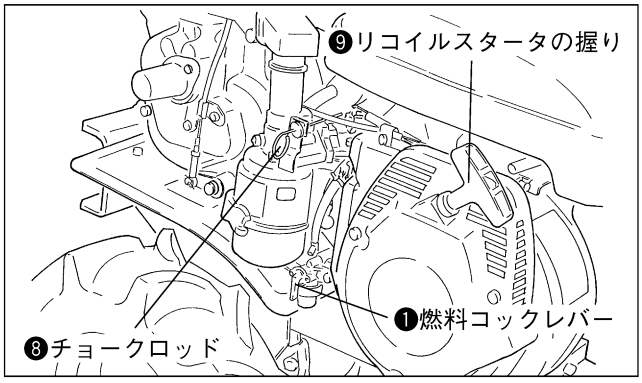
・夏期またはエンジンが暖まっている時は，チョークロッドを押込んだ状態か，または少し引いた状態にします。(**全開または半閉**)

・チョークロッドを引き，１回で始動しない時は，チョークロッドを押込み，リコイルスタータの握りを２～３回ゆっくり引きます。



❾ フロントヒッチに足を置くなど，機械を安定させてリコイルスタータの握りを，いきおいよく引きます。

・エンジンが始動したら調子を見ながらチョークロッドを徐々に押込みます。



取扱いのポイント

- **プラグキャップを外したままでリコイルスタータの握りを引かないでください。**

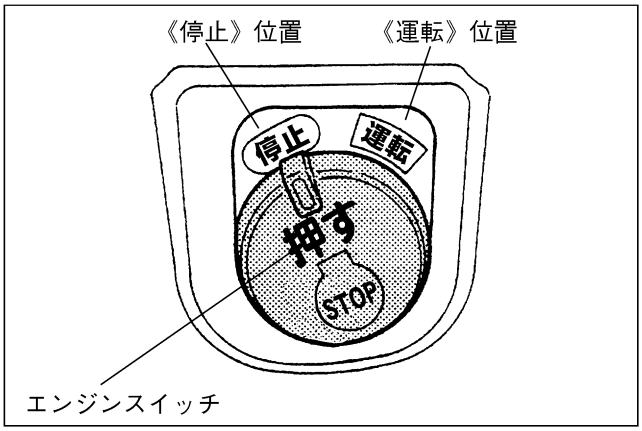
2．エンジン停止のしかた

❶ 主クラッチレバーを《**切**》にします。

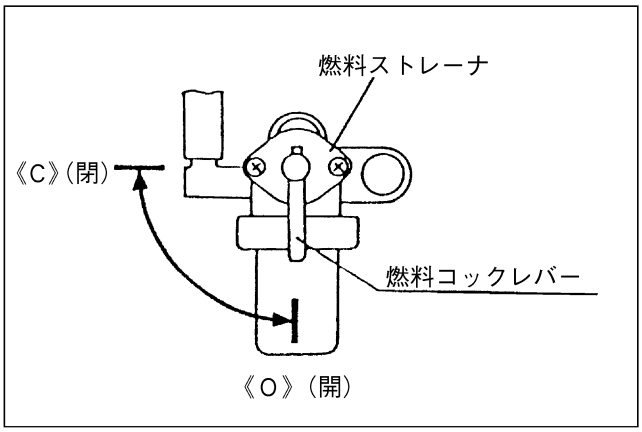
❷ エンジンコントロールレバーを《**L**》(**低速**)にします。

❸ 主変速レバーを《**N**》(**中立**)にします。

❹ エンジンスイッチを押してエンジンを停止します。



❺ 燃料ストレーナの燃料コックレバーを《**C**》(**閉**)の位置にします。(燃料コックレバーを横に向けます。)



3．発進・旋回・停車のしかた

1．発進のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ベルトの掛替え，交換をする時はエンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

◆ハンドルを逆向きにした時は高速停止ノブをゆるめ《高速停止》の位置に固定してください。《高速停止》の位置に固定しておかないと機械が作業者に向かって高速で発進し，思わぬ事故になることがあります。

◆車軸作業速度以上（4速以上。22，23ページ参照）で走行する時はエンジンコントロールレバーを《L》（低速）にしてください。車速が速くて思わぬ事故をおこすことがあります。

◆主クラッチレバーはゆっくり入れてください。急激に入れると急発進して思わぬ事故になることがあります。

◆移動走行する時は輪距を広げてください。狭いと機械の安定が悪く，転倒することがあります。

◆この機械は小型特殊車両ではありません。トレーラでの路上走行はできません。

❶ スタンドをたたみます。

❷ 駐車ブレーキを「**切**」にします。

❸ 主クラッチレバーを《**切**》にします。

❹ 副変速を作業に応じた変速位置にします。(22～23ページ参照)

⑴ ［**457型**］はベルト掛替えにより《**低速**》《**高速**》2段の切替えができます。掛替えは次のように行います。

・エンジンを停止し，主クラッチレバーを《**切**》にします。

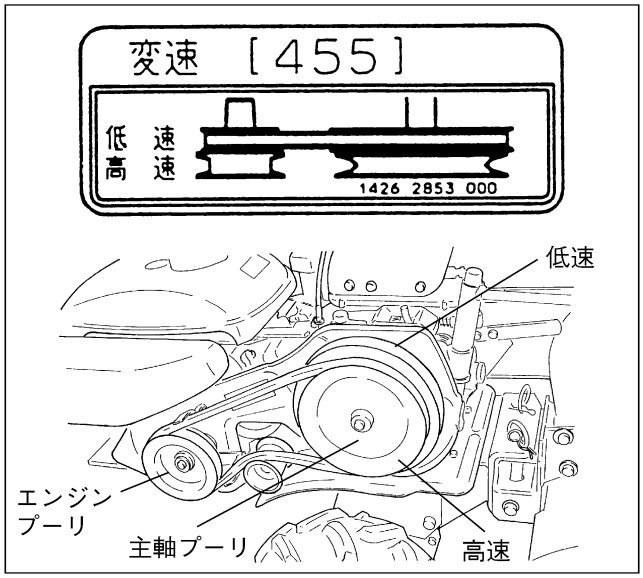
・ベルトカバーを外します。

・変速しようとするプーリにベルトを掛替えます。

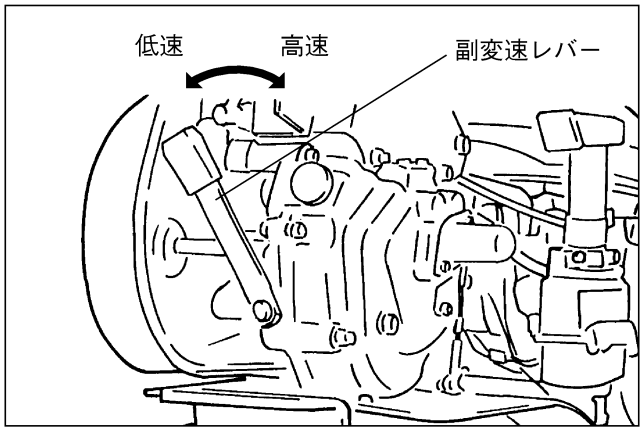
「**奥側が低速**」，「**手前側が高速**」の変速プーリです。

《**低速**》から《**高速**》への掛替えは主軸プーリ側より掛替えます。

《**高速**》から《**低速**》への掛替えはエンジンプーリ側より掛替えます。

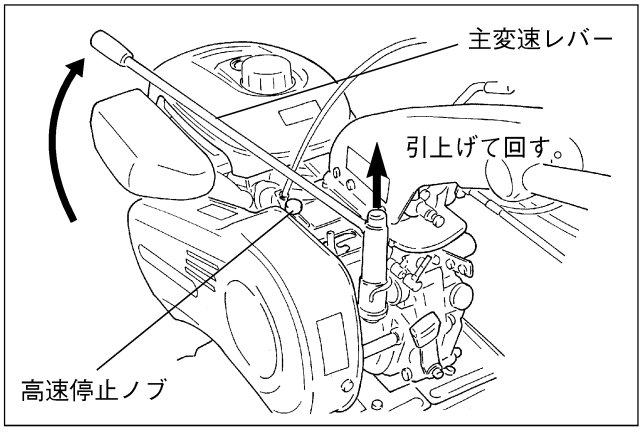


⑵ ［**557・657・707・757・857・1057型**］は副変速レバーで《**低速**》《**高速**》2段の切替えができます。

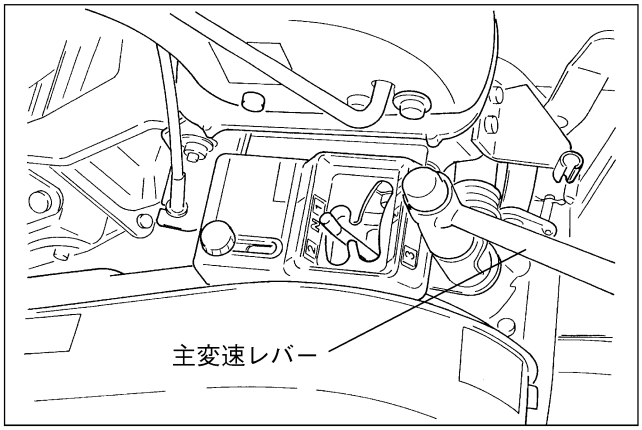


❺ ハンドルを逆向きにした時は，主変速レバーを《**切**》(**中立**) にし，高速停止ノブを《**高速停止**》の位置に固定します。

・主変速レバーもハンドルの回動位置に合わせて操作しやすい位置にします。主変速レバーの根元部を持ち，引き上げて回します。

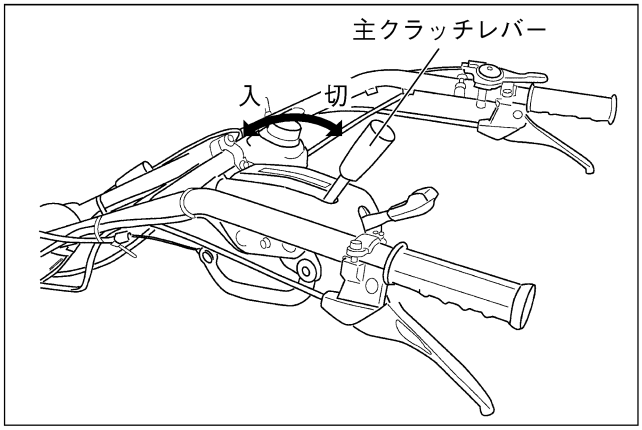


❻ 主変速レバーを作業に応じた変速位置に入れます。(22～23ページ参照)

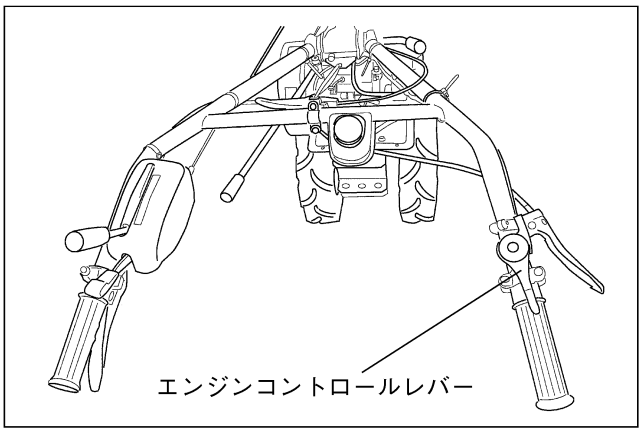


❼ 主クラッチレバーを《**入**》にすると発進します。

主クラッチレバーをゆっくり入れます。



❽ エンジンコントロールレバーを操作し，エンジン回転を上げます。



取扱いのポイント

- **主変速レバー，副変速レバーは主クラッチレバーを《切》にして操作してください。**
- **主変速レバー，副変速レバーが入り難い場合は無理な操作をせず，主クラッチを入れもう一度切ってから変速してください。**
- **ベルトの掛替えは《低速》から《高速》，《高速》から《低速》ともにベルトガイドを調整する必要はありません。ベルトの掛替えを行なった時は主クラッチレバー《切》でベルトが停止することを確認してください。**
- **主クラッチレバーを《入》にするときは駐車ブレーキレバーが「切」になっていることを確認してください。**

2．旋回のしかた

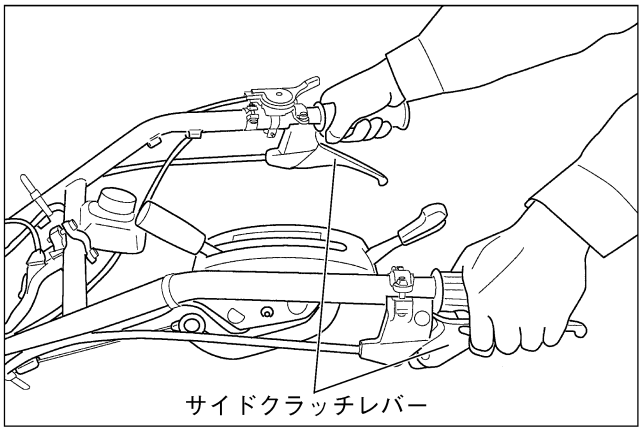
⚠警告　傷害事故防止のために

◆傾斜地や坂道ではサイドクラッチ操作をしないでください。サイドクラッチを操作すると反対方向に旋回することがありますのでハンドル操作のみで旋回してください。

◆低速作業以外ではサイドクラッチ操作をしないでください。急旋回して思わぬ事故をおこすことがあります。

❶　エンジン回転を低速にし，旋回しようとする側のサイドクラッチレバーを握ります。

ハンドルを逆向きにした時も旋回しようとする側のサイドクラッチレバーを握ります。



3．停車のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

◆機械を止める時は平坦な場所を選んでください。

◆燃えやすいものの近くには停車しないでください。

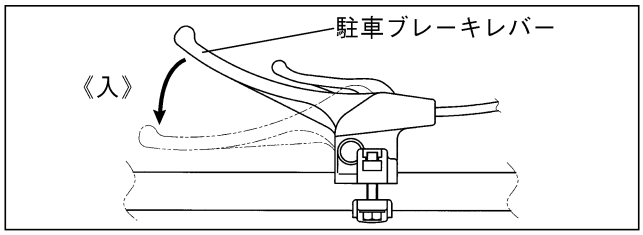
◆エンジンが熱い時はシートカバーをかけないでください。「火災」の原因になります。

❶　主クラッチレバーを《切》にします。

❷　エンジンコントロールレバーを《L》(低速）にします。

❸　主変速レバーを《N》(中立）にします。

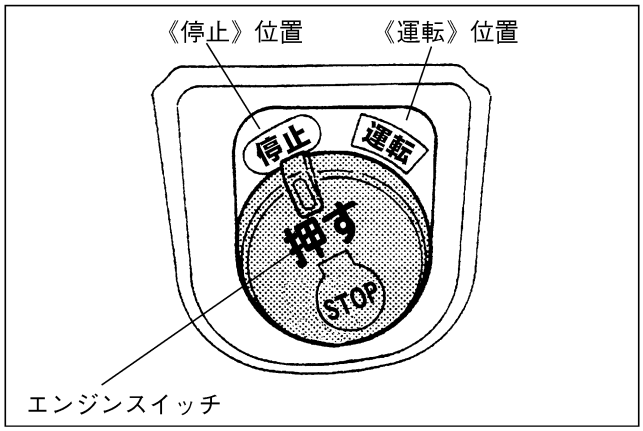
❹　駐車ブレーキを《入》にします。



❺　エンジンスイッチを押してエンジンを停止します。

❻　燃料ストレーナの燃料コックを《C》(閉）にします。

❼　長時間使用しない時（１ヶ月以上）はプルドレンを引き気化器内の燃料を抜きます。



取扱いのポイント

- エンジンを停止する時は２～３分間低回転で運転してから停止してください。
- 機械（エンジン）が傾斜した状態でエンジンを停止した時は，燃料コックを《C》(閉）の位置にしてください。燃料がオーバーフローし，エンジンが始動困難になることがあります。
- エンジンを停止したあと長期間使用しない時は，リコイルスタータの握りで圧縮位置にしてください。
- 長時間使用しない時は，プルドレンを引き気化器内の燃料を抜いてください。

4．自動車への積込み・積降ろし

・自動車への積込み・積降ろしは，まわりに障害物のない平坦で硬い場所を選び，運転者は誘導する補助者と協力して次のことを守って，慎重に行います。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆自動車は荷台に天井のない車を使用してください。
◆アユミが傾いたりしない平坦な場所を選んでください。
◆自動車は駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，変速を後進（バック）に入れ，タイヤに歯止めをしてください。
◆アユミは機械の重量に耐える強度，幅（車輪が外れない幅），長さ（荷台高さの４倍以上）のある，すべり止め，フック付きのものを使用してください。
◆アユミのフックは段差のないように，またずれないように荷台に確実にかけてください。
◆積込み・積降ろしは補助者立会い誘導のもとに行なってください。また機械の周囲に人を近づけないでください。
◆積込みは前進，積降ろしは後進で，主変速は《１》速，副変速は《低速》で行なってください。
◆作業機がアユミに引っかからないようにしてください。
◆積込み・積降ろし中はアユミの上で，主クラッチレバー，サイドクラッチレバー，駐車ブレーキレバーの操作はしないでください。急に方向転換したりして転落する恐れがあります。

１．自動車・アユミについて

❶ 積載重量300kg 以上の自動車で荷台から機械がはみ出さない車を使用します。

❷ 自動車は駐車ブレーキをかけ，変速を後進（バック）に入れ，タイヤに歯止めをします。

❸ アユミは，機械の重量に耐える強度，幅（車輪が外れない幅），長さ（荷台高さの４倍以上）のあるすべり止め付き，フック付きのものを使用します。

❹ アユミは機械の車輪幅に合わせて自動車の荷台と平行に段差のないようにかけ，横ずれしたり，はずれたりしないか確認します。

２．機械の取扱い

❶ エンジン回転を低速にします。

❷ スタンドをたたみます。

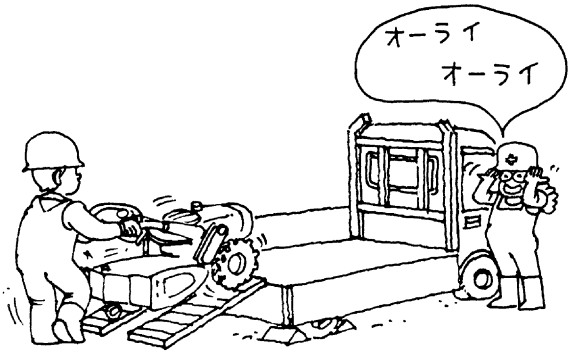
❸ 積込みは前進で行い，主変速レバーは前進の《１》速，副変速は《**低速**》にします。

❹ 降ろすときは後進で行い，主変速レバーは後進の《１》速，副変速は《**低速**》にします。

❺ 積込み後はエンジンを停止し，車輪に歯止めをして主変速レバーを《１》速，主クラッチレバーを《**入**》にしておきます。

❻ 駐車ブレーキレバーを《**入**》にして駐車ブレーキをかけます。

❼ 機械はフロントヒッチを自動車の荷台の床に付けて，ロープで固定します。作業機が付いている場合は機械を安定させた状態でロープで固定します。



作業のしかた

1．作業まえの準備

1．輪距の調節

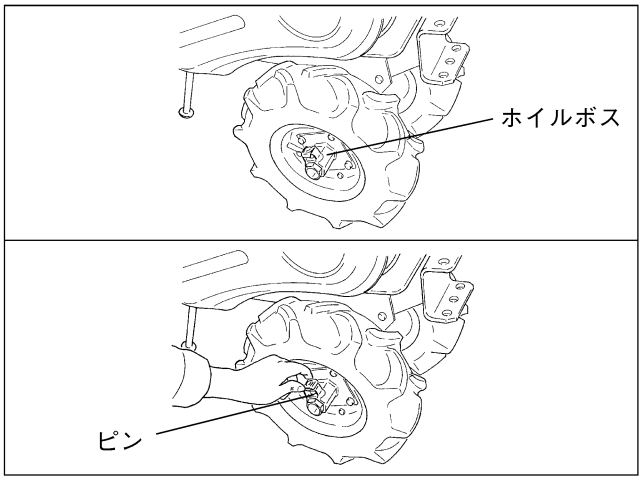
⚠警告 傷害事故防止のために

◆路上移動の時は，できるだけタイヤのセット幅を拡げて機械を安定させてください。幅が狭いと転倒の恐れがあります。

◆輪距調節後はピンが確実にホイルチューブピン穴に入っていることを確認してください。入っていないと車輪がはずれて思わぬ事故を引起こすことがあります。

輪距の調節はホイルボスのスプリング付のピンを引抜き，90°回転させて，車輪を作業に合った位置にスライドします。再びピンを90°回転させて固定します。

車軸へ直接カルチ車輪等を付ければ狭いあぜ間作業ができます。

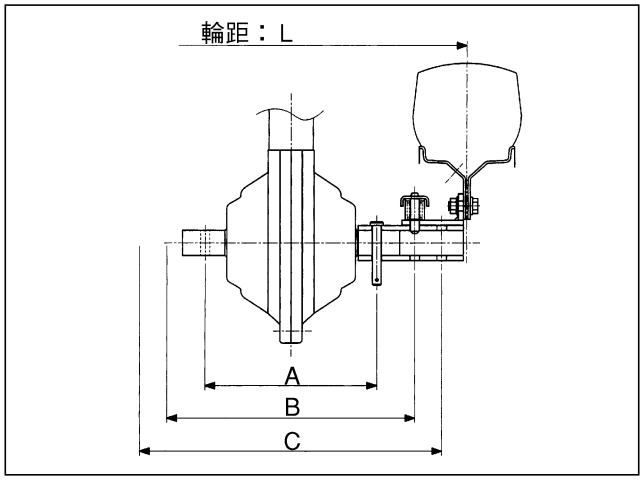


取扱いのポイント

- タイヤ及びアタッチメントを交換するため，機体を大きく傾斜する時は，燃料コックを閉じてください。
  燃料コックを閉じないで交換作業をすると，燃料がオーバーフローし，エンジンが始動困難になることがあります。

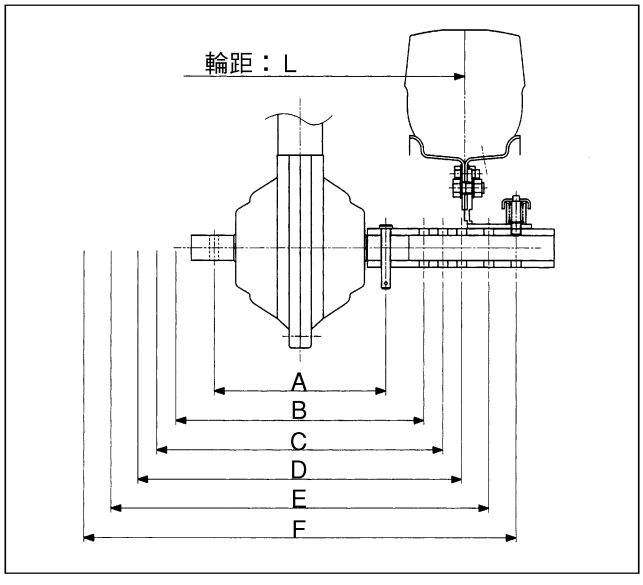
❶ ［457・557型］

寸法記号	ピン穴位置（㎜）	輪距：L（㎜）	
		ホイルボス外向	ホイルボス内向
A	158	—	—
B	228	—	320
C	278	180	370



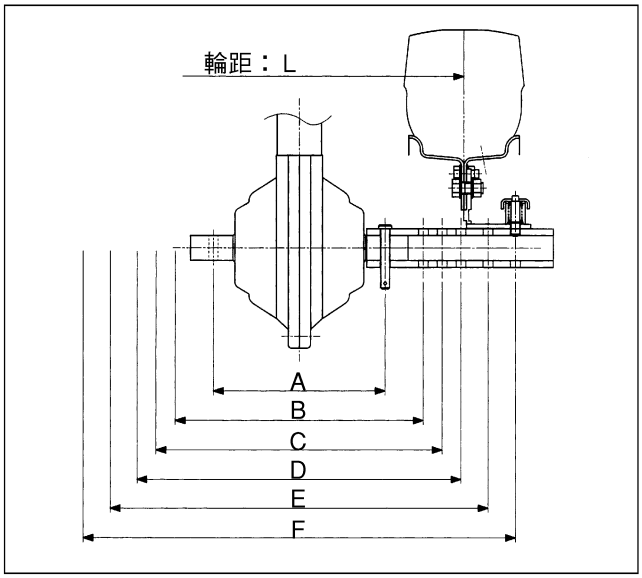
❷ ［457G・557L・557G・657型］

寸法記号	ピン穴位置（㎜）	輪距：L（㎜）	
		ホイルボス外向	ホイルボス内向
A	158	—	—
B	228	—	320
C	263	—	360
D	298	200	390
E	348	250	440
F	398	300	490



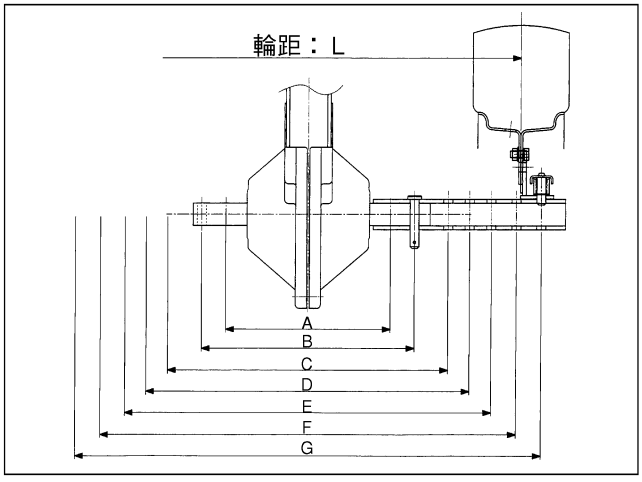
❸ ［657D・707型］

寸法記号	ピン穴位置（㎜）	輪距：L（㎜）	
		ホイルボス外向	ホイルボス内向
A	172	—	—
B	242	—	330
C	277	—	370
D	312	210	400
E	362	260	450
F	412	310	500



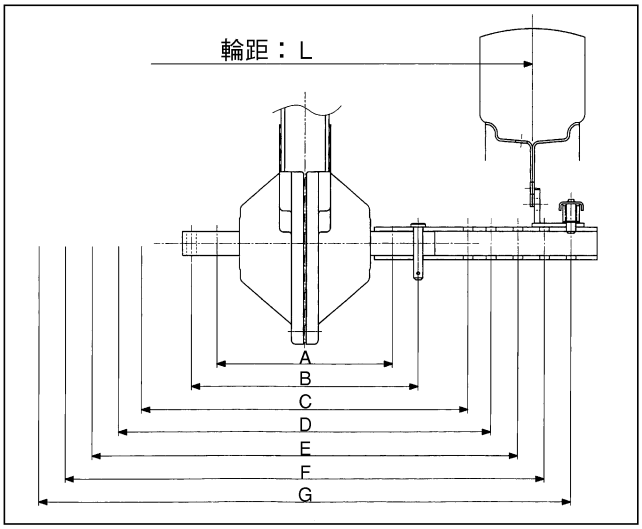
❹ ［757・857型］

寸法記号	ピン穴位置（㎜）	輪距：L（㎜）	
		ホイルボス外向	ホイルボス内向
A	191	—	—
B	247	190	300
C	325	270	380
D	375	320	430
E	425	370	480
F	483	430	540
G	541	490	600



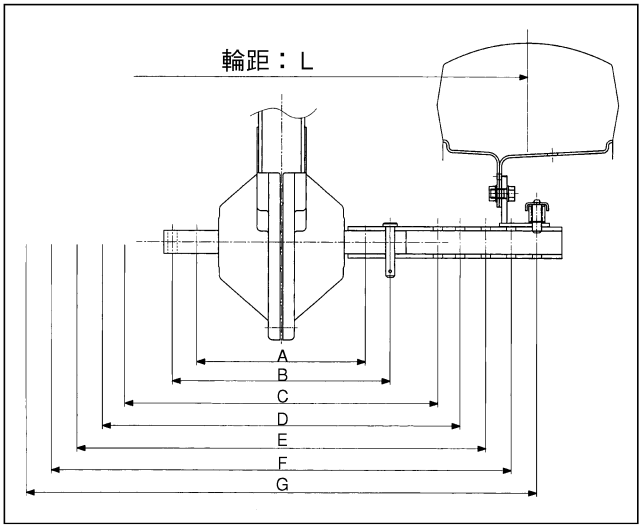
❺ ［1057型］

寸法記号	ピン穴位置（㎜）	輪距：L（㎜）	
		ホイルボス外向	ホイルボス内向
A	191	—	—
B	247	—	330
C	355	270	440
D	405	320	490
E	463	380	550
F	521	440	610
G	579	490	660



❻ ［857P・1057P型］

寸法記号	ピン穴位置（㎜）	輪距：L（㎜）	
		ホイルボス外向	ホイルボス内向
A	191	—	—
B	247	—	—
C	355	330	380
D	405	380	430
E	463	440	480
F	521	500	540
G	579	560	600



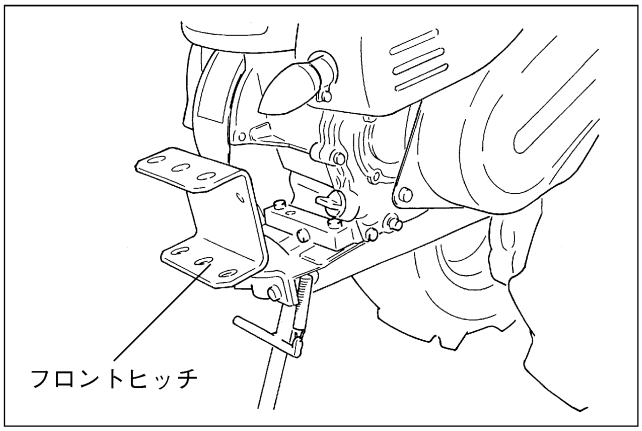
2．作業機の取付け

⚠警告　傷害事故防止のために

◆作業機の取付けは広い平坦な場所で機械を安定させ，作業機の取扱説明書に従って行なってください。
◆PTO軸より動力取出し作業をするときは，回転部が露出しないようにカバーを取付けてください。
◆作業機の取外した後PTO軸を使用しない時は，PTOキャップを取付けてください。

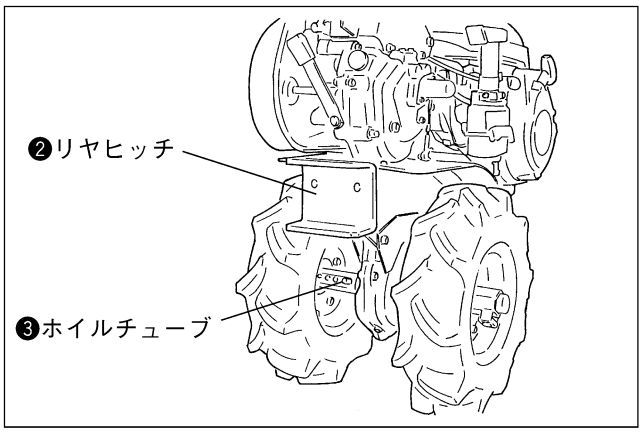
❶　フロントヒッチ

フロントウェイト・フロントキャリヤ等を取付ける時に使用します。



❷　リヤヒッチ

ロータリ・抵抗棒・培土板・マルチ等の作業機を機械に固定する時に使用します。

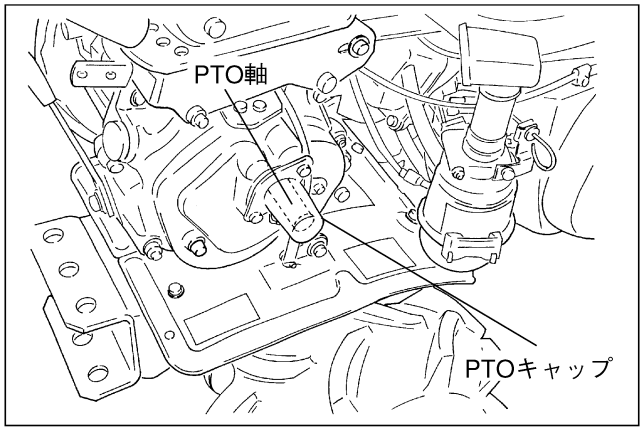


❸　車輪とホイルチューブ

タイヤ・ロータリ・カゴ車輪等の車軸作業機を取付ける時に使用します。

❹　PTO軸

作業機を取付けて動力を取出す時は，PTOキャップを外し，PTO軸に連結します。



3．ハンドルの調節

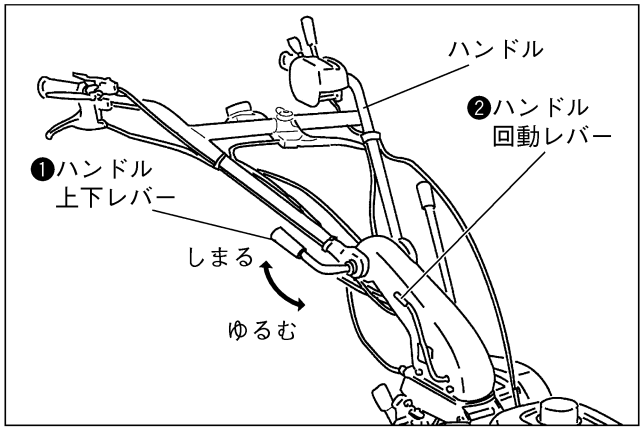
❶　ハンドルの高さ

⚠警告　傷害事故防止のために

◆ハンドルの高さ調節時は，スタンドを立てる等をして，ハンドルから手を離しても機械が安定している状態にしてください。

ハンドルは，使用する人の体格や作業の種類にあわせて使いやすい高さ（腰の位置を目安として）に調節します。

・ハンドルの高さを調節するときはハンドル上下レバーをゆるめ，使いやすい高さに調節します。
・調節後レバーをしめてハンドルを固定します。



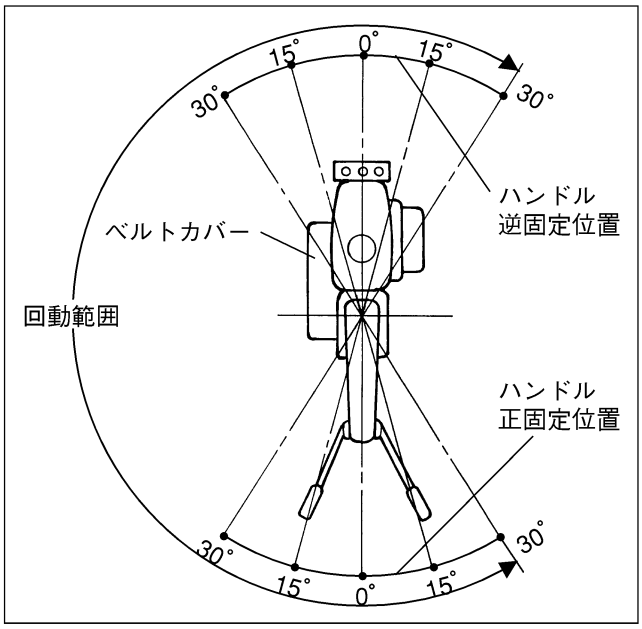
❷ ハンドル回動

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ハンドルを逆向きにする時は高速停止ノブをゆるめ《高速停止》の位置に固定してください。
《高速停止》の位置に固定しないと，機械が作業者に向かって高速で発進し，思わぬ事故になることがあります。

作業に合わせて使いやすい角度にセットして使用します。

・ハンドル正位置，逆向き共，左右にそれぞれ2段の調節ができます。(固定位置は図の10個所です。)
・ハンドル回動レバーを押し下げて，ハンドルを使いやすい位置まで回します。ハンドル回動レバーから手を離しハンドルをさらに回すとレバーが戻りハンドルが固定されます。



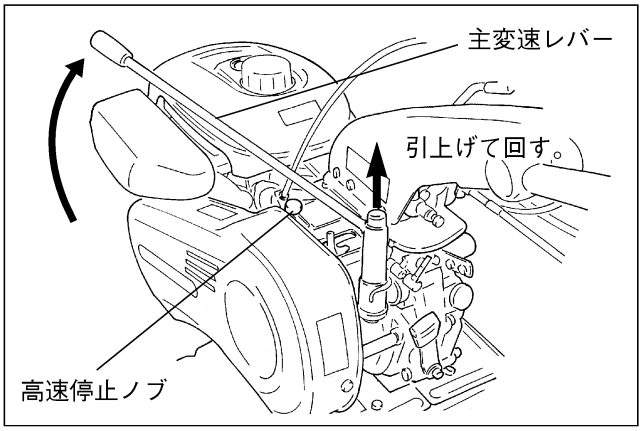
取扱いのポイント

- サイドクラッチを握ったままでハンドルは回動できません。
- ハンドルを回動する時は，ベルトカバー側に回動してください。反対側には回動しないでください。無理に回動しようとすると回動規制ストッパが破損することがあります。

4．主変速レバーの回動

主変速レバーはハンドルの回動位置に合わせて操作しやすい位置にセットします。

・主変速レバーの根元部を持ち，引上げてから回します。操作しやすい位置におろしてセットします。



2．ほ場作業のしかた

1．ほ場への出入りのしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ほ場への出入りやあぜ越えは作業機の回転を止めて行なってください。
◆ほ場への出入りやあぜ越えは，「低速」であぜに「直角」に，上りは「前進」，下りは「後進」で行なってください。
◆ほ場への出入り・あぜ越え・アユミの上ではサイドクラッチ操作や主クラッチ操作，変速操作をしないでください。
◆高あぜ・急傾斜・溝越えはアユミを使用してください。
◆あぜがくずれないことを確認してから，ゆっくり行なってください。
◆後退するときは，後方に溝や障害物がないことを確認してから後進してください。

❶ エンジン回転を低速にします。
❷ 副変速レバーは《**低速**》，主変速レバーは前進の１速にします。
❸ あぜに直角に走行します。
❹ アユミを使用する時は，「**自動車への積込み・積降ろし**」の内容に従って行います。

2．作業に適した速度の選びかた

⚠警告 傷害事故防止のために

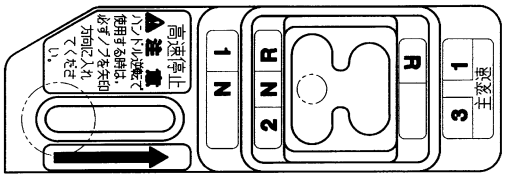
◆ベルトの掛替えはエンジンを停止してから行なってください。
◆高速停止ノブを《高速停止》の位置に固定してください。《高速停止》の位置に固定しておかないと機械が作業者に向かって高速で発進するなど，思わぬ事故になることがあります。
◆ハンドル逆位置の時は，《高速停止》を解除しないでください。
◆大径車輪を装着しての後進はしないでください。やむをえずする時はエンジン回転を低速にし後方を確認して，ハンドルをしっかり押えて行なってください。

❶ ［457型］

主変速レバーとベルトの掛替えで次の変速ができます。

・ハンドル正位置のときは《**高速停止**》を解除し，前進６段・後進２段の変速ができます。作業が終れば《**高速停止**》にしておきます。
・ハンドル逆位置のときは《**高速停止**》に固定します。前進２段・後進２段の変速ができます。

変速表示マーク



ハンドル向き	変速		変速レバー位置 主変速	変速レバー位置 副変速(ベルト掛替)	適応作業
正位置	前進	1	1	低速	ロータリ作業
		2	1	高速	ロータリ・マルチ作業
		3	2	低速	マルチ作業
		4	2	高速	中耕作業
		5	3	低速	ロータ作業
		6	3	高速	除草作業
	後進	1	R1	低速	——
		2	R1	高速	
逆位置	前進	1	1	低速	覆土作業
		2	1	高速	運搬作業
	後進	1	R1	低速	畝作り作業
		2	R1	高速	——
	上記以外は《**高速停止**》し，使用しないでください。				

PTO軸回転数（rpm）

ベルト掛替低速	776
ベルト掛替高速	1271

❷ ［557・657・757・857・1057型］

主変速レバーと副変速レバーの組合わせで次の変速ができます。

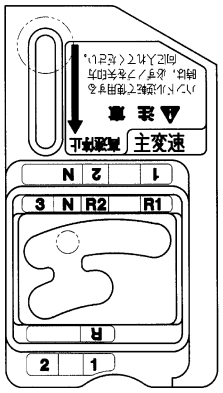
・ハンドル正位置のときは《**高速停止**》を解除し，前進6段・後進4段の変速ができます。作業が終れば《**高速停止**》にしておきます。

・ハンドル逆位置のときは《**高速停止**》に固定します。前進4段・後進2段の変速ができます。

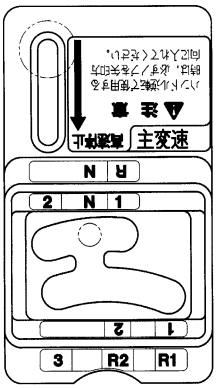
・1057型では，車軸耕うん作業はできません。

変速表示マーク

［557・657型］



［757・857・1057型］



ハンドル向き	変速		変速レバー位置 主変速	副変速	適応作業
正位置	前進	1	1	低速	ロータリ作業
		2	1	高速	ロータリ・マルチ作業
		3	2	低速	中耕作業
		4	3		深耕・ロータ作業
		5	2	高速	ロータ作業
		6	3		除草作業
	後進	1	R1	低速	——
		2	R2		
		3	R1	高速	
		4	R2		
逆位置	前進	1	1	低速	覆土作業
		2	2		
		3	1	高速	運搬作業
		4	2		
	後進	1	R1	低速	畝作り作業
		2	R1	高速	——
	上記以外は《**高速停止**》し,使用しないでください。				

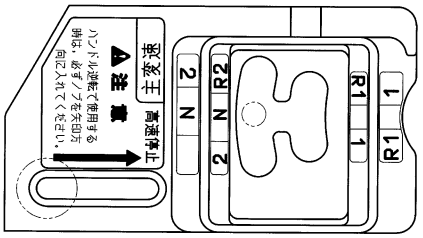
❸ ［707型］

主変速レバーと副変速レバーの組合わせで次の変速ができます。

・ハンドル正位置のときは《**高速停止**》を解除し，前進4段・後進4段の変速ができます。作業が終れば《**高速停止**》にしておきます。

・ハンドル逆位置のときは《**高速停止**》に固定します。前進4段・後進2段の変速ができます。

変速表示マーク



ハンドル向き	変速		変速レバー位置 主変速	副変速	適応作業
正位置	前進	1	1	低速	ロータリ作業
		2	1	高速	ロータリ・マルチ作業
		3	2	低速	中耕作業
		4	2	高速	深耕・ロータ作業 除草作業
	後進	1	R1	低速	——
		2	R2		
		3	R1	高速	
		4	R2		
逆位置	前進	1	1	低速	覆土作業
		2	2		
		3	1	高速	運搬作業
		4	2		
	後進	1	R1	低速	畝作り作業
		2	R1	高速	——
	上記以外は《**高速停止**》し,使用しないでください。				

PTO軸回転数（rpm）

557型	732
657型	745
707型	
757型	704
857型	764
1057型	

3．上手なほ場作業のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

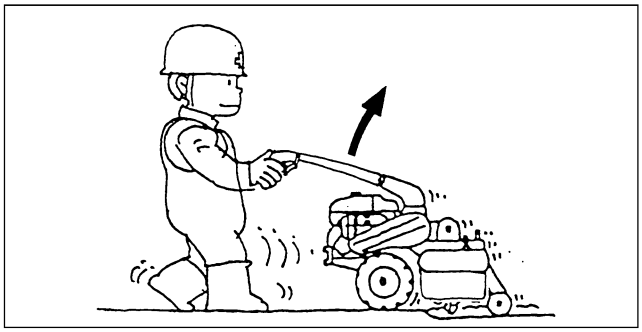
◆後退するときは，後方に溝や障害物がないことを確認してから後進してください。

❶　ロータリ作業中の移動・後進はロータリ爪の回転を止め，足元に気をつけて行います。

❷　後進作業はハンドルを逆向きにし，後方に障害物がないことを確かめます。障害物やハウスの壁と機械の間にはさまれないよう後方を確認して行います。

❸　ハンドル逆向き作業時は高速停止ノブを《**高速停止**》の位置に固定します。

❹　ハンドル逆向きでロータリ作業等を行う時は，旋回時にハンドルワンタッチ上下レバー（557・657・707・757・857・1057型）でハンドルを上に上げてからロータリを持ち上げると容易に旋回ができます。



❺　深耕用ロータでの耕うん時はロータが土から出てからサイドクラッチ操作をします。作業前や旋回した後は，サイドクラッチを操作して，ロータの左右の爪位置の位相を合わせて，同時に打込むようにします。

（1057型では，深耕用ロータ作業はできません。）

手入れのしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆点検・整備・掃除する時は平坦な場所に機械を置いて，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆エンジン回りの点検・整備はエンジンが冷えてから行なってください。
◆屋内でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。
◆取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。

取扱いのポイント

- **エンジンオイル等の油脂類を交換して廃却するときは，廃却設備のある所で廃却処理してください。**
- **部品または機械を廃却する時は，「お買いあげ先」に御相談ください。**

1．定期点検整備

・正常な機能を発揮し，いつでも安全な状態であるように**「定期点検整備表」**に従って定期的に点検し，必要により掃除・調整・整備を行います。

「定期点検整備表」（点検○，交換●）

分類	点検・整備項目	整備内容	点検間隔				参照ページ 備考
			シーズン前	30時間毎	50時間毎	格納時	
エンジン関係	エンジンオイル	点検・補給・交換	○（毎日作業前）	●（初回のみ）	●	○	26, 27
	エアクリーナオイル・エレメント	点検・掃除・補給	○（毎日作業前）			○	26, 28
	燃料ストレーナ	点検・掃除	○（毎日作業前）			○	29
	燃料ホースの劣化ともれ	点検・交換	○（毎日作業前）			○	30
	燃料タンクの燃料	補給・抜取り	○（毎日作業前）			抜取り	26, 27, 35
	気化器の燃料	抜取り				抜取り	5, 35
	点火プラグ	点検・掃除・交換			○	○	29, 30
	エンジン取付ボルト	点検・増締	○			○	32
本機関係	ミッションケースオイル	点検・補給・交換	○	●（初回のみ）	●	○	26, 28
	各操作レバー軸・テンションプーリ回動支点・ワイヤの注油	注油	○（毎日作業前）			注油	26, 28
	各操作レバーの作動	点検	○（毎日作業前）			○	31～34
	主クラッチ	点検・調整	○（毎日作業前）		○	○	31～32
	サイドクラッチ	点検・調整	○（毎日作業前）		○	○	32～33
	Vベルトの伸び	点検・調整	○		○	○	32
	ボルト・ナットのゆるみ	点検	○			○	—
	タイヤ	点検	○（毎日作業前）			○	30

2．給油・注油のしかた

・工場出荷の時は各給油個所にオイルが入れてありませんので，給油表に従って給油してください。
・オイルの点検・交換は,「**運転まえの点検表**」及び「**定期点検整備表**」に従って行います。
・オイルの点検・交換は機械を平坦な場所に駐車して行います。

取扱いのポイント

- **各給油個所には指定オイルを規定量給油してください。**
- **廃油など汚れたオイルを注油すると，故障の原因となりますので使用しないでください。**
- **交換したオイルを廃却する時は，廃却設備のある所で廃却処理してください。**

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検する時は，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行なってください。
◆回転部・摺動部から異音が発生する時はエンジンを停止し，各部の動きが止まってから注油してください。

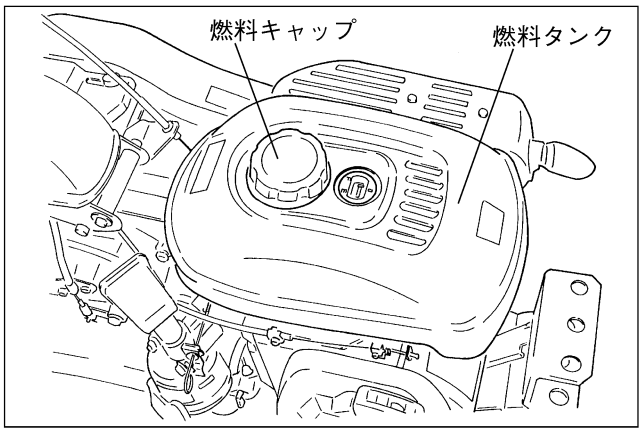
⚠危険 ヤケドや火災防止のために

◆燃料補給時は火気を近づけないでください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱い時は給油・注油しないでください。又オイル交換もしないでください。
◆損傷や劣化した燃料ホースは交換してください。燃料もれがあると火災の原因となります。
◆こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
◆マフラ，テールパイプに触れないでください。

「給油・注油表」

No.	給油・注油個所	種　類	分　類		容　量（L）		備　考
			API サービス分類	SAE 粘度番号			
①	燃料タンク	無鉛ガソリン	－	－	457･557･657･707型	2.6	・始業時点検（必要量補給）
					757･857･1057型	4.0	
②	エンジンクランクケース	エンジンオイル	SD級以上	10W－30	457･557･657型	0.6	・初回30時間目に交換 ・50時間毎に交換
					707型	0.9	
					757･857･1057型	1.2	
③	ミッションケース	ギヤオイル	GL－4級以上	80W または 90	457型	1.8	・初回30時間目に交換 ・50時間毎に交換
					557･657･707型	2.0	
					757･857･1057型	3.2	
④	エアクリーナ	エンジンオイル	SD級以上	10W－30	オイルレベルまで		・始業時点検
⑤	摺動部（ワイヤ類）	エンジンオイル	SD級以上	10W－30	適　量		・始業時点検
⑥	主クラッチレバー軸	エンジンオイル	SD級以上	10W－30	適　量		・始業時点検
⑦	主変速レバー軸	エンジンオイル	SD級以上	10W－30	適　量		・始業時点検
⑧	テンションプーリ軸	エンジンオイル	SD級以上	10W－30	適　量		・始業時点検

1．燃料の補給



燃料キャップを外して給油口より補給します。

・燃料……無鉛ガソリン

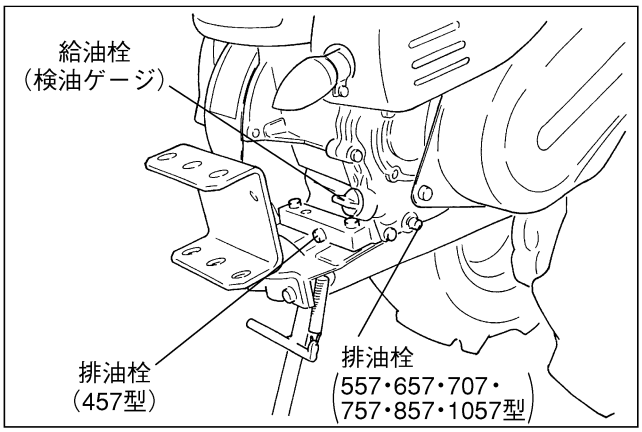
・タンク容量…**2.6L［457・557・657・707型］**

4.0L［757・857・1057型］

取扱いのポイント

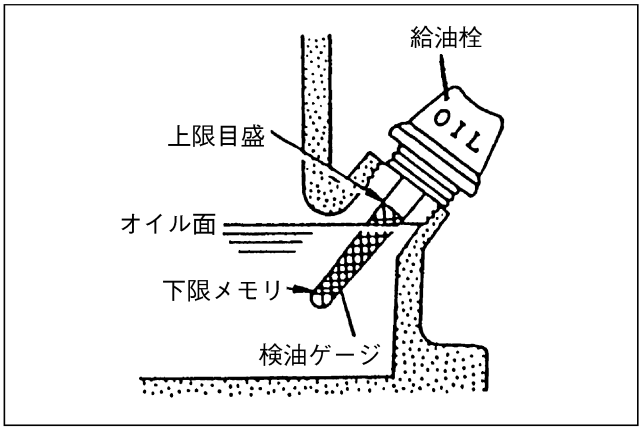
●燃料はフィルタを通してゴミや水が混入しないように給油します。

2．エンジンオイルの点検・交換



❶ **点検**……エンジンが水平になる場所に停車し，給油栓を外しオイルゲージ面をきれいにふき取ってから差込みます。（ねじ込まない）

・ゲージの上限と下限の間に油面があるか確認し，不足している場合は補給します。



❷ **交換**……排油栓を外し，オイルを抜きます。オイルが完全に抜けたら，排油栓を確実に締め，新しいオイルをオイルゲージの「**上限**」まで給油します。

・オイル…… **純正油** 又は，

ガソリンエンジン用オイル

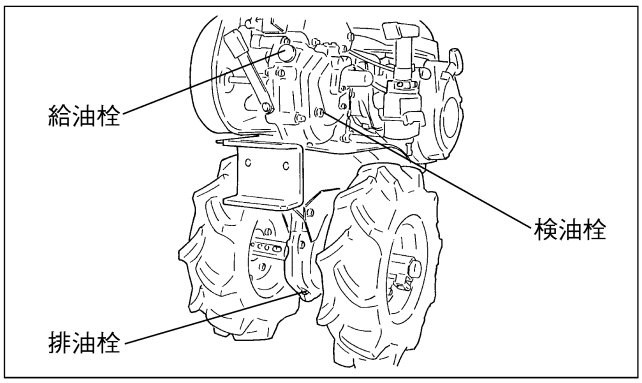
API・SD級以上，SAE・10W－30

・オイル量…**0.6L［457・557・657型］**

0.9L［707型］

1.2L［757・857・1057型］

3. トランスミッションケースのオイル点検・交換



❶ **点検**……検油栓を外し，油量が口元まであるか調べます。

・不足している場合は，給油栓を外して補給します。

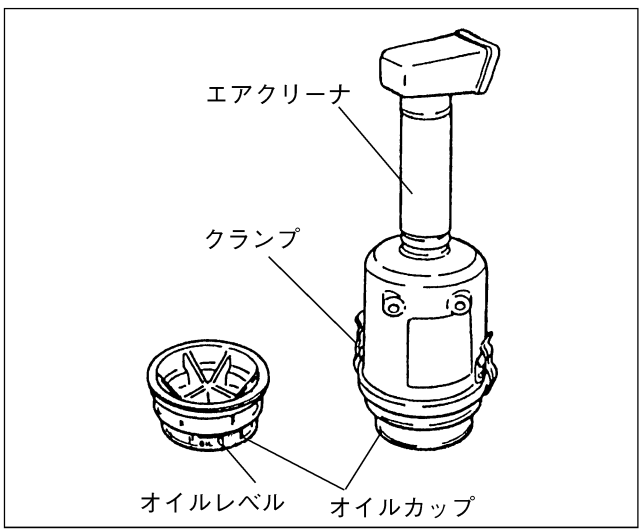
❷ **交換**……(1) ケース下部の排油栓を外しオイルを抜きます。

(2) 排油栓を取付けた後，給油栓より，検油栓の口元まで給油します。

・オイル…… (純正油) 又は，
ギヤオイル
API・GL－4級以上，
SAE・80W，SAE・90

・オイル量…**1.8L［457型］**
2.0L［557・657・707型］
3.2L［757・857・1057型］

4. エアクリーナのオイル補給



❶ **補給**……オイルカップのオイルレベルライン（規定量位置）までオイルがあるか確認します。

・不足している場合はクランプを倒してオイルカップを外し，オイルレベルライン（規定量位置）までオイルを補給します。

・オイル…… (純正油) 又は，
ガソリンエンジン用オイル
API・SD級以上，
SAE・10W－30

・オイル量…オイルレベルライン位置

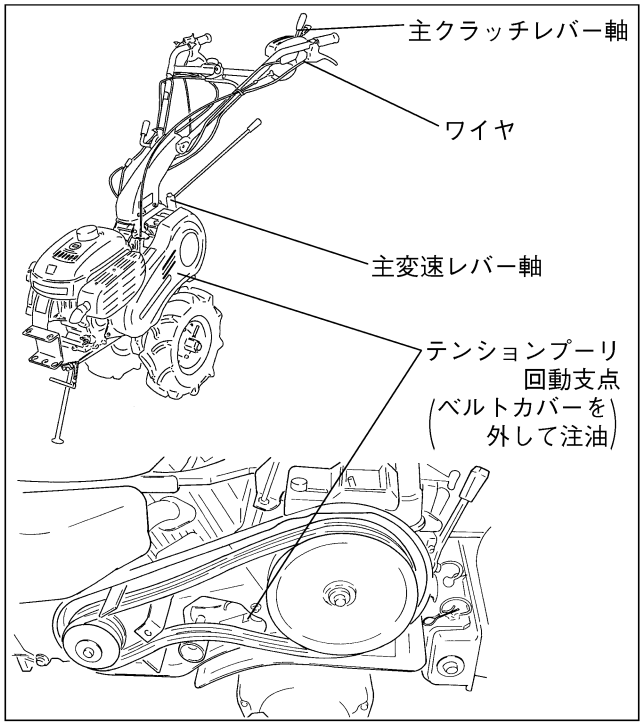
5. 注油個所

❶ **注油**……油差しで注油します。

・オイル…… (純正油) 又は，
ガソリンエンジン用オイル
API・SD級以上，
SAE・10W－30

・オイル量…適用注油

・注油個所…ワイヤ類・主クラッチレバー軸・主変速レバー軸・テンションプーリ回動支点



3．各部の点検と掃除のしかた

⚠危険 火災防止のために

◆エレメント，ネットの洗浄にガソリンは使用しないでください。

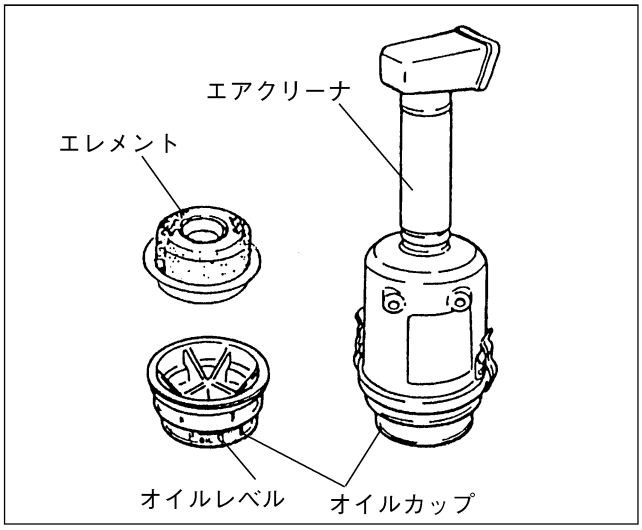
1．エアクリーナの掃除

吸入空気は，オイルカップのオイルによって浄化します。

エアクリーナエレメントを汚れたままで使用すると，エンジンの内部損耗や出力低下をまねきます。

❶ オイルが不足している時は，オイルカップのオイルレベルラインまで補給します。

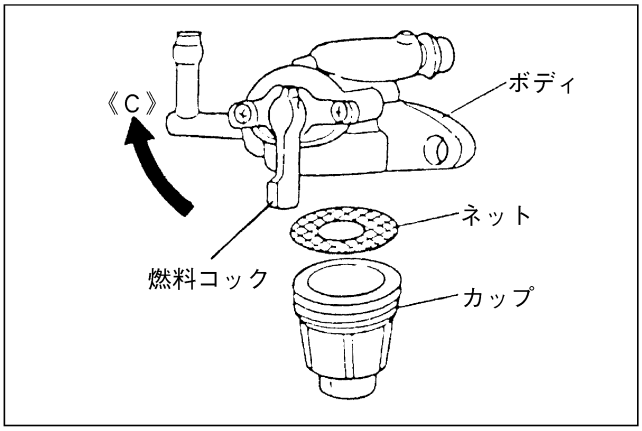
❷ オイルが汚れている時はオイルカップとエレメントを外して白灯油で洗浄し，エレメントは白灯油を振切って取付けます。オイルカップにエンジンオイルをオイルレベルラインまで入れます。



2．燃料ストレーナの掃除

ストレーナカップに水またはゴミがたまっていないか点検します。

燃料コックを《C》(閉) にし，カップとネットを外して，白灯油できれいに洗浄し取付けます。



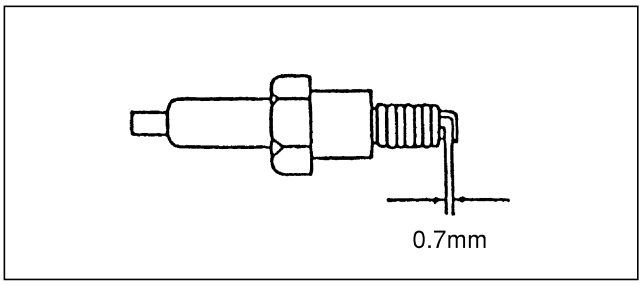
3．点火プラグの点検と掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

◆リコイルスタータの握りを引く時にプラグキャップや高圧コードに触れないでください。触れると「感電」することがあります。

❶ ボンネットを外し，プラグキャップを外して付属のボックスレンチで点火プラグを外します。

❷ 点火プラグについているカーボンを取除き，電極スキマが「0.7㎜」になるように点検調整します。



❸ 電極部が損耗または破損しているときは，新しい点火プラグと交換します。

❹ 点火プラグを取付け後，プラグキャップを確実に差込みます。

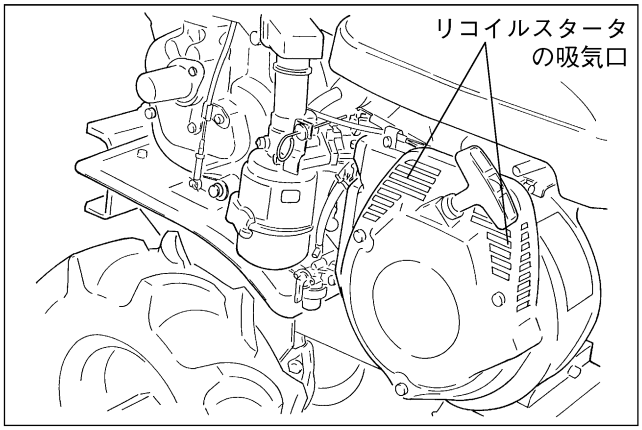
・使用点火プラグ…NGK－BP6HS（457・557・657型）
NGK－BP5ES（707・757・807・1057型）

取扱いのポイント

- プラグキャップを外したままでリコイルスタータの握りを引かないでください。
- 点火プラグをエンジン側にアースしないでリコイルスタータの握りを引かないでください。エンジンの電気回路の故障になります。アースして点検してください。
- 点火プラグの電極スキマを調整してもエンジンが始動しない時は新しい点火プラグと交換してください。

4．リコイルスタータの掃除

リコイルスタータ部の吸気口は，きれいに掃除します。ワラクズ，ゴミ等の付着があるとエンジンの過熱や出力低下の原因になります。(ここからエンジンの冷却風が吸込まれます。)



5．燃料ホースの点検

⚠警告 傷害事故防止のために

◆燃料ホースの損傷，外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料がもれてないか確認し，もれている場合は，火災の原因となりますので交換してください。

燃料ホースの老化や傷による燃料もれがないか，また締付バンドがゆるんでいないか点検します。

傷んでいなくても２年ごとに交換します。

6．タイヤの点検

⚠警告 傷害事故防止のために

◆タイヤの空気圧を守ってください。空気を入れすぎる（空気圧が高すぎる）と，タイヤが破損し，死傷事故につながることがあります。

◆タイヤに傷があり，その傷がコード(糸)に達している場合は，タイヤが破損するおそれがありますので，使用しないでください。

◆タイヤ・チューブ・リム等の交換・修理は「お買いあげ先」に相談してください。

・タイヤに亀裂等損傷がないか点検します。
　損傷のひどい場合は，タイヤを交換します。
・タイヤの空気圧を調整します。

空気圧

タイヤサイズ	空気圧kPa(kgf／cm²)
100/85D6－2PR 17×8.00－8－4PR	160(1.6)
4.00－7－2PR 4.00－8－2PR 4.00－9－2PR	120(1.2)

4．各部の点検と調整のしかた

各部は出荷のときに正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生じてくることがありますので再調整を行い，損耗の限度をこえた部品は交換し，正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は機械を平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

◆調整後は，異常なく作動することを試運転で確認してください。

1．主クラッチの調整

⚠警告 傷害事故防止のために

◆主クラッチの調整はエンジンを停止して行なってください。

◆エンジンを始動して，ベルトの作動，停止を確認する時は，他の人や物を遠ざけ，エンジンプーリやベルトに手や足を出さないでください。

◆調整後はベルトカバーを取付けてください。

◆ベルトを張りすぎないでください。ベルトを張りすぎると，主クラッチが切れず，事故を起こす恐れがあります。

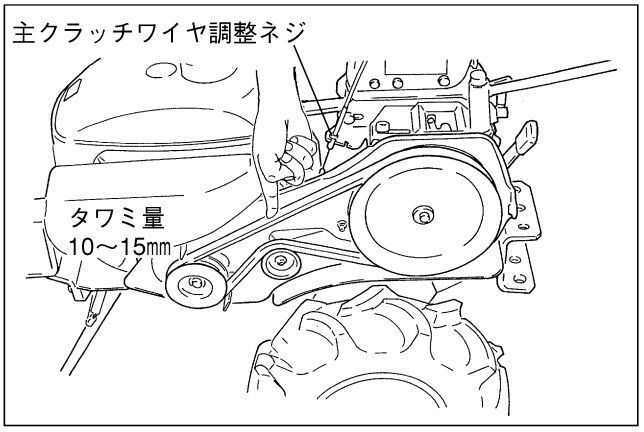
主クラッチは，ベルトテンション式です。

主クラッチの調整がゆるいとVベルトのスリップにより作業能率及び性能が低下し，Vベルトの損傷も早くなります。

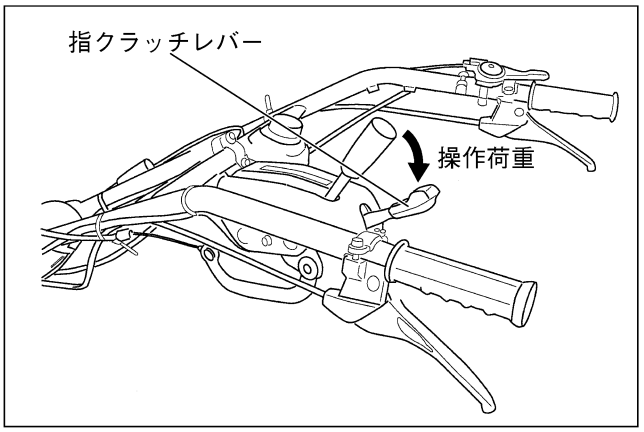
エンジンを停止し，ベルトカバーを外します。

❶ **点検**……主クラッチレバーを《**入**》にし，ベルトの中央部を押した時，ベルトのタワミ量が **10～15㎜** ですか。

❷ **調整**……(1) 主クラッチワイヤ調整ネジで調整します。



(2) 指クラッチレバーの操作荷重を調整する時は，押え部での「**操作荷重**」を主クラッチワイヤ調整ネジで調整します。



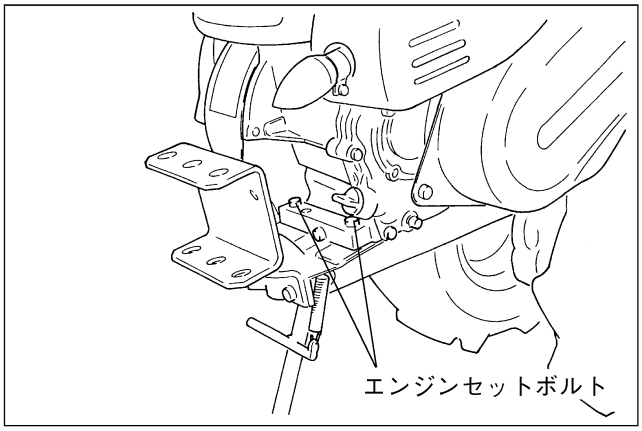
指クラッチレバーの操作荷重

457型	34～39N {3.5～4.0kgf}
557・657・707型	44～49N {4.5～5.0kgf}
757・857・1057型	54～59N {5.5～6.0kgf}

❸ ❷の方法で調整できない時は，エンジンを前方にスライドさせます。

エンジンはエンジンセットボルト４本及び燃料タンクブラケットボルト１本，ベルトカバーのエンジン側ボルト（ナット）２本をゆるめスライドさせます。

ボルトを締めつけた後，❷の方法で調整します。



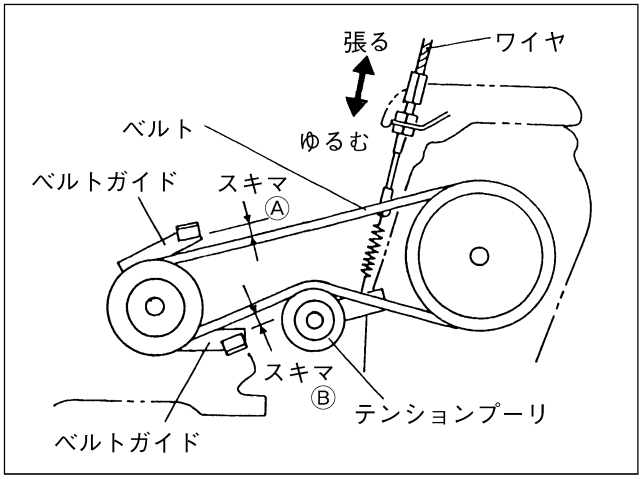
２．ベルトガイドの調整

主クラッチ（ベルト，ワイヤ），エンジン位置を調整した時はベルトガイドの位置も点検，調整します。

［457型］はベルトを《低速》側にセットして行います。

❶ **点検**……主クラッチレバーを《**入**》にし，ベルトとベルトガイドのスキマⒶ，Ⓑが右上表の値になっていますか。

❷ **調整**……⑴ ベルトガイドの位置を調整し，固定します。



ベルトとベルトガイドのスキマ

	スキマⒶ	スキマⒷ
457型	5.5～7.5㎜	5.5～7.5㎜
557・657型	4.0～6.0㎜	2.5～4.5㎜
707型	4.0～6.0㎜	4.0～7.0㎜
757・857・1057型	4.0～6.0㎜	7.0～9.0㎜

⑵ 主クラッチレバーを《**切**》にし，主変速レバーを《**N**》「**中立**」にして，エンジンを始動します。
主クラッチレバーを操作し《**切**》の時，ベルトが静止すれば調整は完了です。

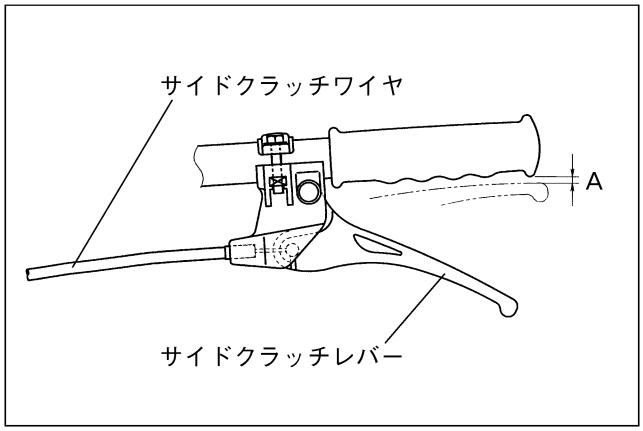
３．サイドクラッチの調整

サイドクラッチは，特殊ボール式爪クラッチです。

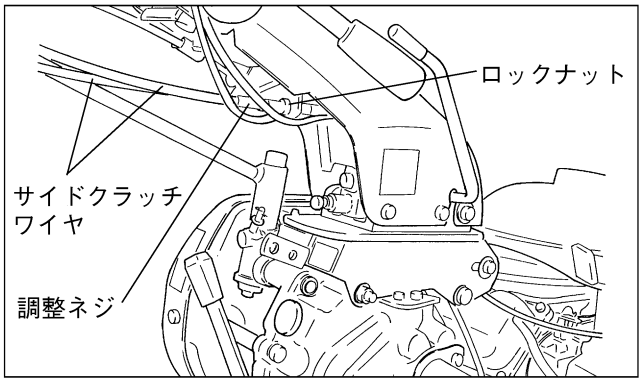
サイドクラッチワイヤを張りすぎると，車軸に負荷がかかった時サイドクラッチが外れることがあります。

またサイドクラッチレバーに遊びが多いと，サイドクラッチが「**切**」れないことがあり，思わぬ事故の原因になることがあります。

❶ **点検**……サイドクラッチレバーを握って，サイドクラッチが「**切**」れた時の「**A寸法**」が **5～10㎜** ありますか。



❷ **調整**……(1) サイドクラッチワイヤの調整ネジで調整後，ロックナットで固定します。



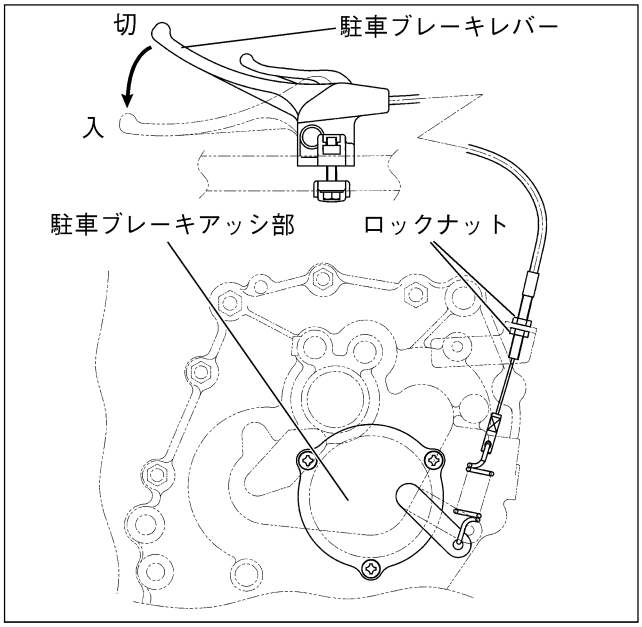
(2) 調整が終わったら，ハンドル回動操作をして，ハンドル正位置の時及び逆向きの時に，サイドクラッチが「**切**」れることを確認します。

4．駐車ブレーキの調整

[707・757・857・1057型]

❶ **点検**……駐車ブレーキを《**入**》にしたとき，ブレーキが効いていますか。

❷ **調整**……駐車ブレーキレバーの操作荷重が 59〜78N{6 〜 8 kgf} でブレーキが効くようにロックナットを調整します。



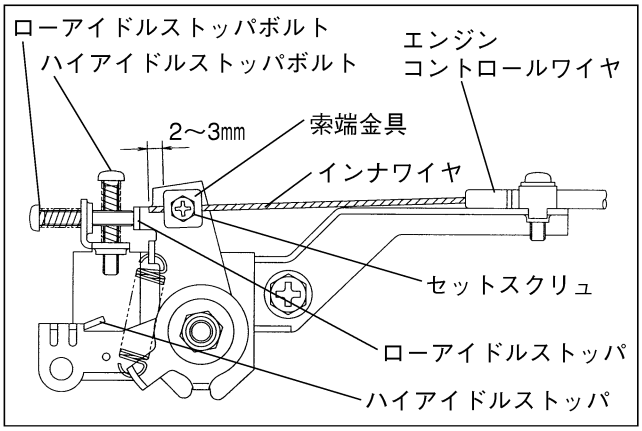
❸ 調整後，駐車ブレーキを「**入**」れ機械が動かないことを確認します。

5．エンジンコントロールワイヤの調整

コントロールワイヤ先端の「**索端金具**」(ワイヤ止め金具）のセット位置が悪いと，エンジンコントロールレバーを《🐢》「**低速**」位置にしても，エンジンのアイドリングが高かったり，《🐇》「**高速**」位置にしても，最高回転に達しない場合があります。

[457・557・657型]

❶ **点検**……(1) エンジンコントロールレバーを，いっぱい《🐢》にした位置で，ワイヤ先端が索端金具から 2〜3 mm はみ出して固定してありますか。

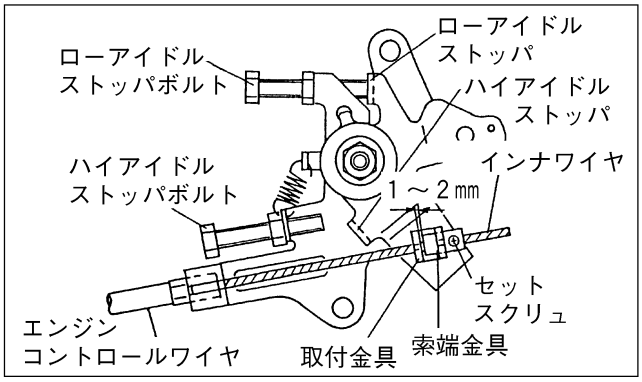


❷ **調整**……(1) ワイヤ先端が索端金具から 2 〜 3 mm はみ出す位置にしてセットスクリュで固定します。

(2) エンジンを始動し，エンジンコントロールレバーを操作して《🐢》位置にした時，ローアイドルストッパがローアイドルストッパボルトにあたり，《🐇》位置にしたとき，ハイアイドルストッパがハイアイドルストッパボルトにあたることを確認します。

［707・757・857・1057型］

❶ **点検**……(1) エンジンコントロールレバーを，いっぱい《🐢》にした位置でエンジン側の取付金具と索端金具との間に 1～2㎜ の遊びがありますか。

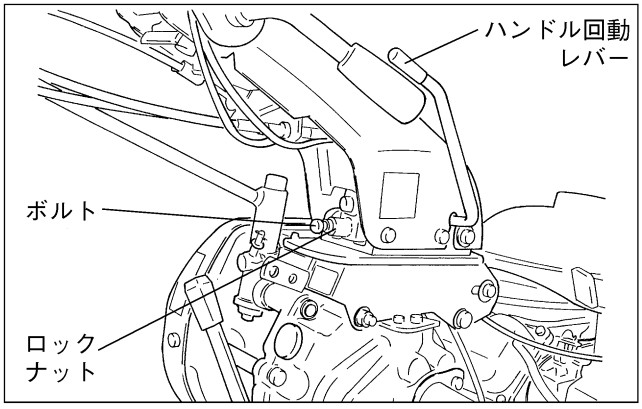


❷ **調整**……(1) 遊びを 1～2㎜ にし，索端金具をセットスクリュで固定します。

(2) エンジンを始動し，エンジンコントロールレバーを操作して《🐢》位置にした時，ローアイドルストッパがローアイドルストッパボルトにあたり，《🐇》位置にした時，ハイアイドルストッパがハイアイドルストッパボルトにあたることを確認します。

6. ハンドル回動レバーの調整

❶ **点検**……ハンドル回動レバーを押し下げた時，ハンドルが左右に回動できますか。



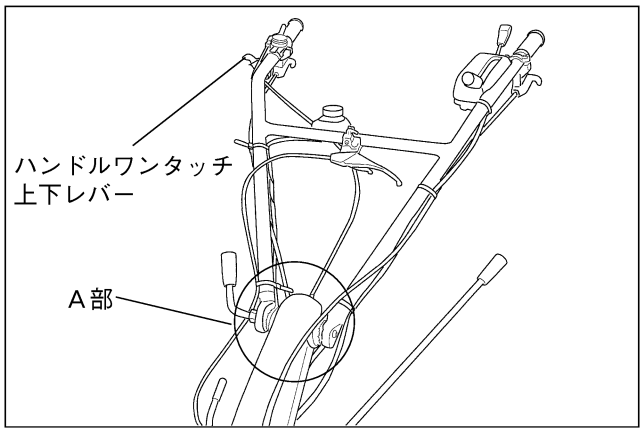
❷ **調整**……ボルトを半回転程ゆるめます。ハンドルが左右に回動できればボルトをロックナットで固定します。

7. ハンドルワンタッチ上下レバーの調整

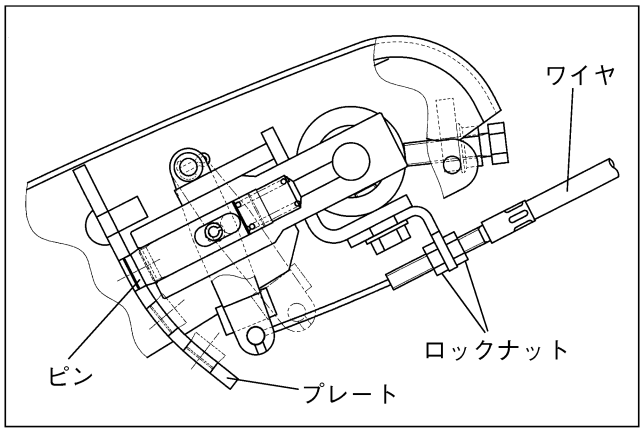
［557・657・707・757・857・1057型］

❶ **点検**……ハンドルワンタッチ上下レバーを操作したとき，ハンドルが上下にセットできますか。

❷ **調整**……ハンドルを上下にセットした時にプレートの穴にピンが入るようにロックナットで調整します。



（A部詳細）



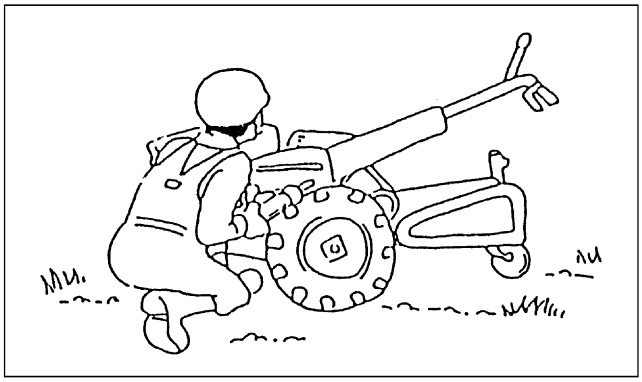
長期格納のしかた

⚠警告 火災や傷害事故防止のために

◆回転部に付着した泥・ゴミ・ワラクズを取除く時は，エンジンを停止し，各部の回転が停止してから行なってください。
◆エンジン・マフラ・燃料タンク周囲のワラクズを取除いてください。火災の原因になることがあります。
◆取外したカバー類はすべて取付けてください。
◆燃料ホースの老化や，傷による燃料もれがあると火災の原因になります。作業前後に点検し，損傷したりもれている場合は交換してください。

シーズンが終わったら「**定期点検整備表**」(25ページ参照) の「**格納時**」の項目について点検・整備及び掃除を行い，更に次の処置をします。

1．機械の掃除と洗浄



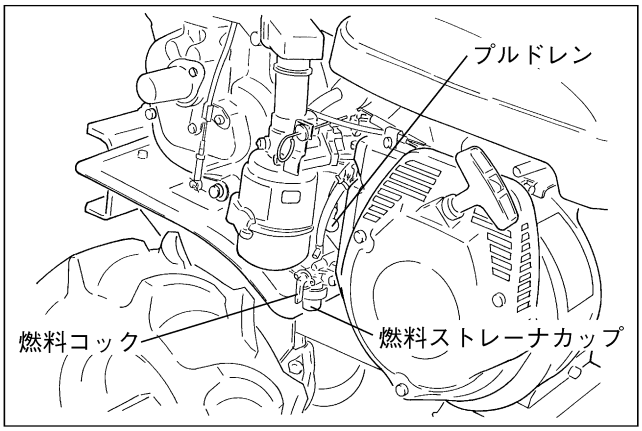
❶ 泥・ワラクズ・草などを取除き，汚れをきれいに水洗いして乾いた布でふき取ります。
❷ 塗装がはげた個所は補修塗料を塗り，機体のサビやすい個所にはグリスかオイルを塗布します。
❸ 回転部・しゅう動部・ワイヤ類には注油しサビないようにします。

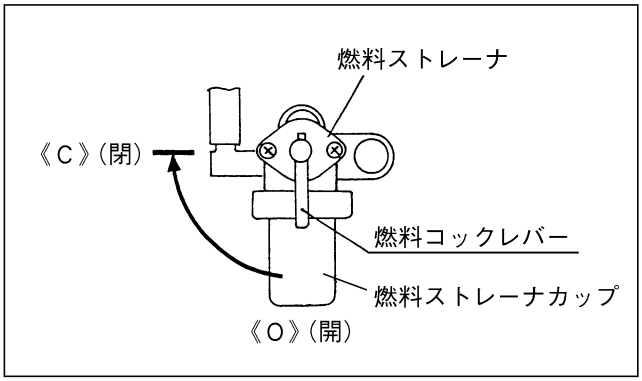
取扱いのポイント

- **エンジンが熱いときは水をかけないでください。**
- **エンジンまわりの電気配線部には水をかけないでください。エンジン始動不良の原因となります。**

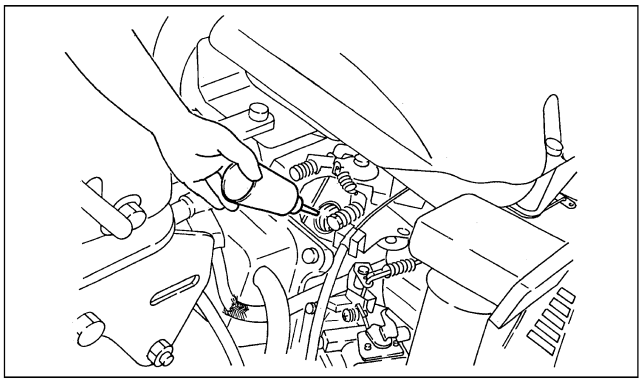
2．エンジンの手入れ

❶ エンジンオイルを交換します。
オイル交換時はアイドリング回転で5分間程度運転し，各部にオイルをゆきわたらせてから停止します。
❷ エンジンコントロールレバーはいっぱい《🐢》「**低速**」位置にしておきます。
❸ 機械を1ヶ月以上使用しないときは，燃料変質による始動不良または運転不調にならないように，燃料タンク・燃料ストレーナ・気化器の燃料を抜きます。
(1) 燃料タンクの燃料を給油ポンプで抜き，残量分は燃料ストレーナカップを外して抜きます。
(2) 気化器のプルドレンを引き，気化器内の燃料を抜取ります。
(3) 燃料を抜終わったら，燃料ストレーナカップを取付け，燃料コックを《C》「**閉**」位置にします。
(4) 燃料を抜くために，外したりゆるめた個所は元の状態に戻しておきます。





❹　点火プラグを外してシリンダ内にエンジンオイルを「5～10cc」注入し，リコイルスタータの握りを引っ張り数回「**カラ回し**」をしてから点火プラグを取付け，圧縮のある位置で止めておいてください。



取扱いのポイント

- **気化器は，むやみにいじらないでください。**
- **長期間（1ヶ月以上）使用しないときは，燃料腐食で気化器内部を腐食させるので燃料コックを閉じ，気化器のプルドレンを引き，燃料を抜取ってください。**

3．格　納

⚠警告　火災防止のために

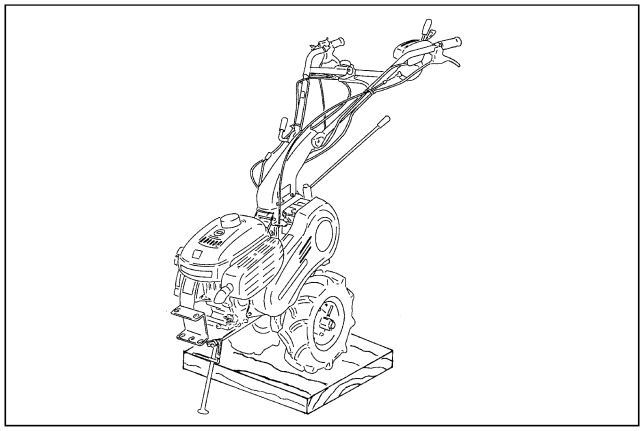
◆機械にシートカバーをかける時はエンジンが冷えてから行なってください。
エンジンが熱い時にシートカバーをかけると火災になることがあります。

機械の掃除・点検・整備を終えたら風通しのよい乾燥した平坦な屋内を選び，シートをかけて保管します。

❶　主クラッチレバーは《**切**》にしてベルトテンションをゆるめ，ベルトの張りを解除しておきます。

❷　「**ゴムタイヤ**」の場合は，日光の直射をさけて屋内で車輪に木台などを敷き，その上に機械をのせます。

❸　タイヤの空気圧を点検し，減っていれば補充します。



取扱いのポイント

- **錆の発生を防止するため，塩分の強い貯蔵物や肥料とおなじ場所に格納するのはさけてください。**

4．再使用する時は

格納後，はじめて使用するときには，定期点検整備表のシーズン前点検を行なった後に運転します。（25ページ参照）

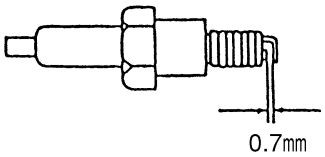
不調時の処置

・不調が発生したら，すぐにその原因を調べて処置をし，故障を大きくしないようにします。
・原因がわからない場合や，調整しても再発するときは「**お買いあげ先**」に相談し，点検を受けてください。
・その時は不調の状況とあわせて「**型式名**」・「**機械番号(製造番号)**」・「**エンジン番号**」をお知らせください。

⚠警告 ヤケドや傷害事故防止のために

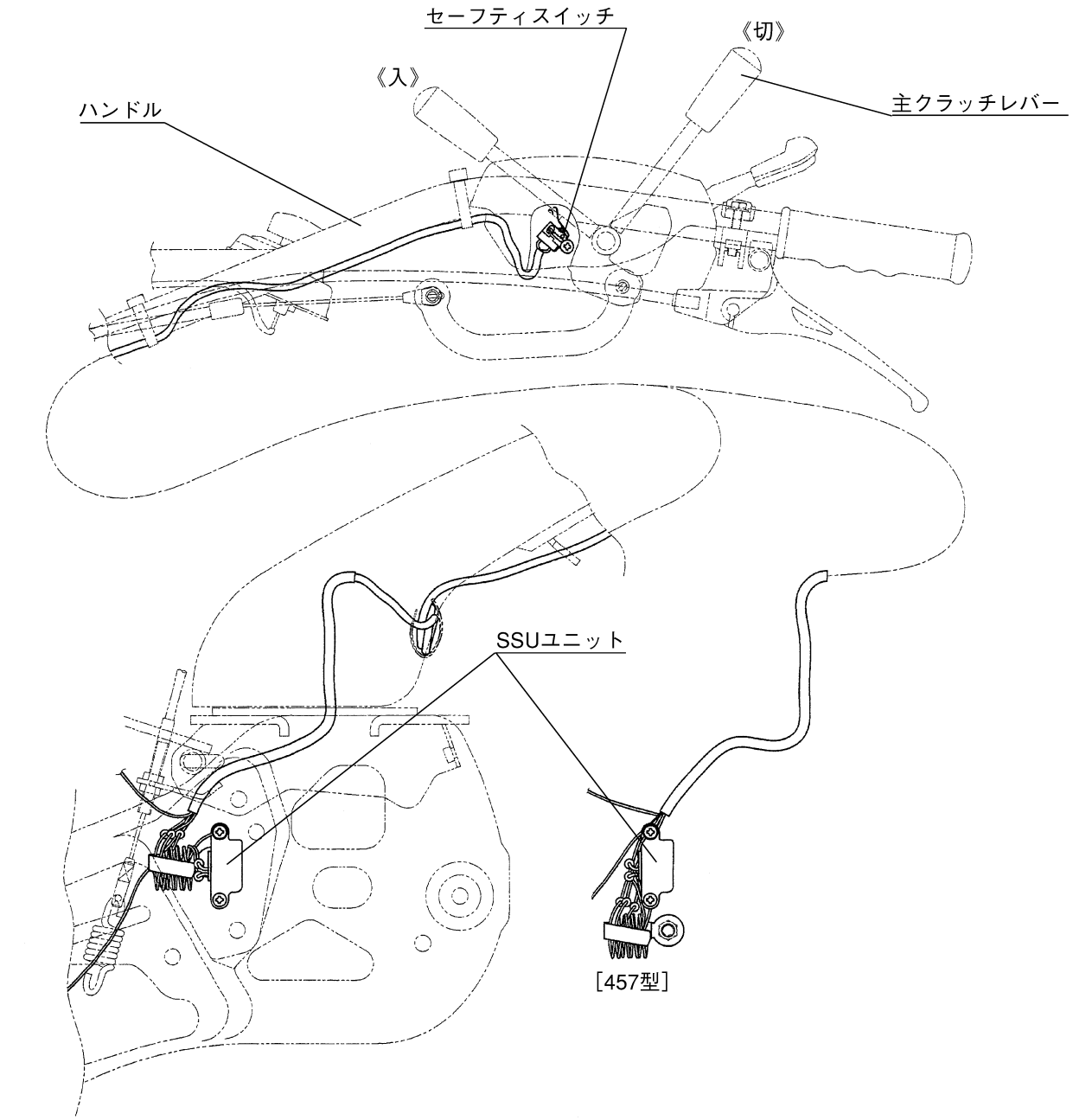
◆作業中に不調が発生した場合は機械を広い平坦な場所に停車し，エンジンを止め，各部の動きが止まってから行なってください。
◆エンジン回りの点検・整備は，エンジンが冷えてから行なってください。
◆取外したカバーはすべて取付けてからエンジンを始動してください。

1．エンジン部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
エンジンが始動しない。または始動困難	❶ 燃料が入っていない。	・燃料を補給します。	27
	❷ 燃料コックレバーが《C》(閉)の位置になっていないか。	・燃料コックレバーを《O》(開)の位置にする。	12
	❸ エンジンコントロールレバーの位置はよいか。	・エンジンコントロールレバーを始動位置《・》印部にします。	5 13
	❹ 点火プラグが湿っている。	・チョークを引いたままにしたり，長時間機体を前方に倒したままにしておくと，点火プラグが湿りがちとなるので点火プラグを外し，よく乾燥させます。	29
	❺ 点火プラグの火花が出ない。または出ても弱い。	・点火プラグの電極スキマを調整します。  0.7㎜ ・点火プラグのカーボンを掃除します。 ・点火プラグを新品と交換します。 使用点火プラグ NGK－BP6HS（457・557・657型） NGK－BP5ES（707・757・857・1057型）	29
	❻ チョークロッドを引いてない。	・チョークロッドをいっぱいに引きエンジン始動後，徐々に戻します。 ・エンジンが暖まっているときは，チョークロッドを少し引いた状態にします。	5 13

不調時の処置

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
エンジンが始動しない。または始動困難	❼ エンジンスイッチが《**停止**》になっている	・エンジンスイッチを《**運転**》にする。	5
	❽ 主クラッチレバーが《**入**》になっている。	・主クラッチレバーを《**切**》にする。	12
	❸ SSU，セーフティスイッチが故障している。	・点火プラグ点検時火花が出ないときは，SSU，セーフティスイッチの故障が考えられるので「**お買いあげ先**」に相談する。	38



［557・657・707・757・857・1057型］

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
エンジンの出力不足および自然停止	❶ エアクリーナにゴミがつまっている。	・エレメントおよびオイルカップを白灯油で洗浄し，エレメントから点滴しない程度に振切り，エンジンオイルをオイルカップのオイルレベルラインまで入れる。	29
	❷ リコイルスタータの吸気口がつまっている。	・きれいに掃除をする。	30
	❸ エンジンオイルが減っている。	・エンジンオイルを規定量補充する。 ・エンジンオイルが古くなっているときは，新しいオイルと交換する。	26 27
	❹ エンジンの圧縮がない。	・ピストンリングの摩耗などが考えられるので「**お買いあげ先**」に相談する。	—
	❺ エンジンの冷却フィンに泥等がつまっている。	・きれいに掃除をする。	—
	❻ エンジンの回転が十分あがらない。	・エンジンコントロールレバー・ワイヤ取付部にゆるみはないか，セットはよいか点検する。	33，34
	❼ 作業機が適していない。	・作業機が大きくないか，回転速度は適正か点検する。	22，23

2．本　機

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
主クラッチレバーを操作しても走行しない	❶ ベルトが伸びてスリップしている。	・ベルトの張り調整をする。	31，32
	❷ ワイヤが伸びている。	・ワイヤ調整をする。	31，32
	❸ 駐車ブレーキが《**入**》になっている。	・駐車ブレーキレバーを「**切**」にする。	6
サイドクラッチレバーを操作しても旋回性能が悪い	❶ サイドクラッチワイヤが伸びてサイドクラッチレバーの遊びが多い。	・ワイヤ調整をする。	32，33

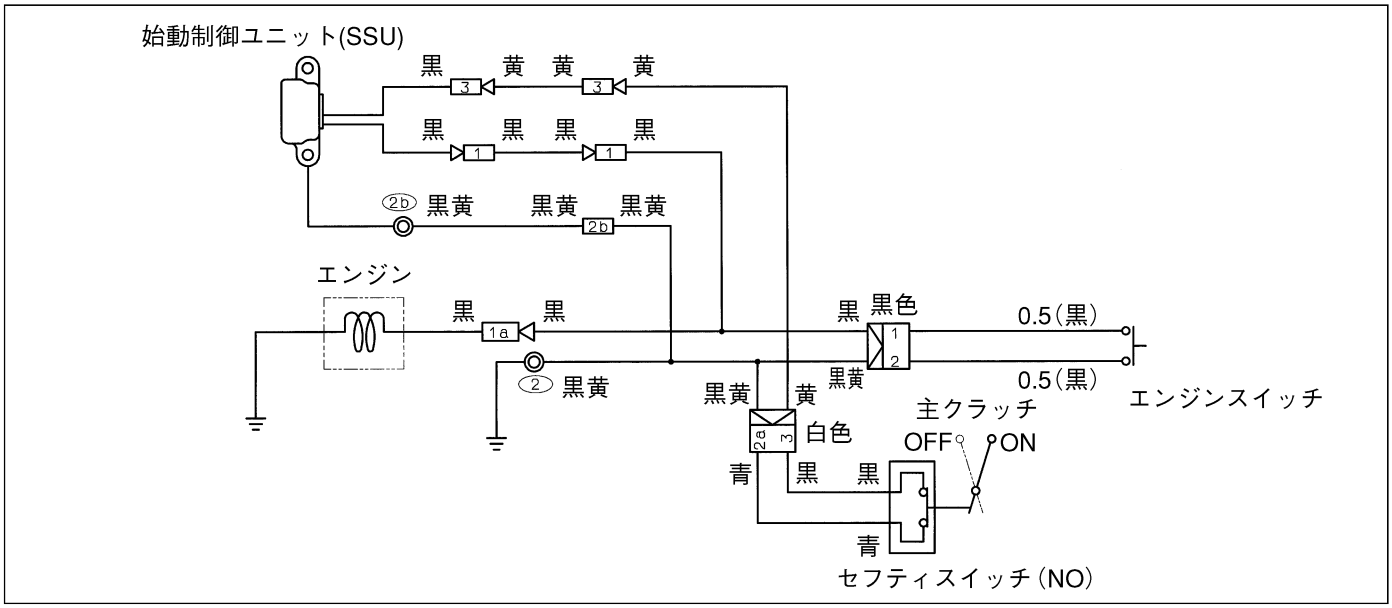
付　　表

1．主要諸元

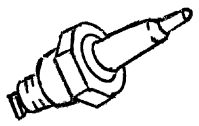
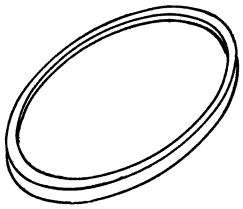
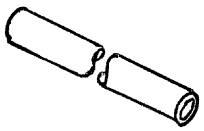
型式区分		MM457		MM557			MM657	MM707	MM757		MM857		MM1057	
		S	SG	S	SG	SL(G)	S(G)	S	S	SL	S	SP	S	SP
機体寸法	全長（mm）	1530		1550					1630					
	全幅（mm）	660												
	全高（mm）	1080		1100		1140			1170	1189		1193	1200	1193
機体質量（重量）（kg）		65		75		78		84	101	105		109	106	109
エンジン	型式名	GM132L		GM182L				GM231L	GM291L				GM301L	
	種類	空冷4サイクルOHV式ガソリンエンジン												
	総排気量（L{cc}）	0.126{126}		0.181{181}				0.215{215}	0.296{296}					
	出力/回転速度《 》内は最大出力（kW{PS}/rpm）	2.1{2.8}／1800《3.1{4.2}》		2.9{4.0}／1700《4.0{5.5}》			3.3{4.5}／1800《4.6{6.3}》	3.7{5.0}／1800《5.4{7.4}》	3.7{5.0}／1500《5.5{7.5}》		4.4{6.0}／1800《6.3{8.5}》		5.5{7.5}／1800《7.7{10.5}》	
	燃料タンク容量（L）	2.6							4.0					
	始動方式	リコイルスタータ式												
走行部	タイヤ	φ330×幅100（100／85D6）				4.00－7				4.00－8		φ448×幅205（17×8.00－8）	4.00－9	φ448×幅205（17×8.00－8）
	輪距（mm）	180～370（3段）	200～490（8段）	180～370（3段）	200～490（8段）			210～500（8段）	190～600（12段）			330～600（10段）	270～660（11段）	330～600（10段）
	主クラッチ形式	ベルトテンション式												
	操向クラッチ形式	特殊ボール式爪クラッチ												
	走行変速段数（段）	前進6，後進2		前進6，後進4				前進4，後進4	前進6，後進4					

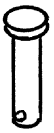
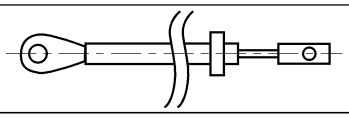
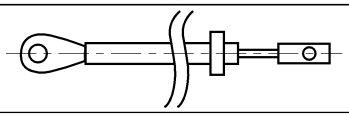
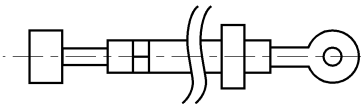
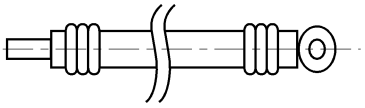
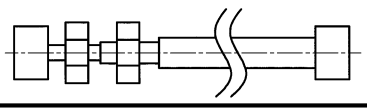
※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

2. 電気配線図



3. 主な消耗部品

No	部品交換		部品番号	外観形状
1	点火プラグ	457型 557型 657型	NGK－BP6HS	
		707型 757型 857型 1057型	NGK－BP5ES	
2	Vベルト	457型	0852 1500 041（SB－41）	
		557型	1426 0254 000（SB－44）	
		657型	1445 0231 000（SB－45）	
		707型	1406 0303 000（SA－41）2本	
		757型 857型 1057型	1407 0204 000（SB－44）2本	
3	ホース （タンク～ストレーナ）	457型	0981 0080 370	
		457Y型 557型 657型	0981 0080 400	
		707型	0981 0080 450	
		757型 857型 1057型	0981 0080 420	
4	ホース （ストレーナ～キャブ）	457型 557型 657型	P051 Y04X 190	
		707型 757型 857型 1057型	P051 Y04X 140	

No.	部品交換		部品番号	外観形状
5	オイルシール (車輪)	457型 557型 657型 707型	1426 1259 000	
		757型 857型 1057型	3515 2261 001	
6	ホイルチューブピン	457型 557型 657型 707型	0562 1108 055	
		757型 857型 1057型	0560 0110 050	
7	スナップピン	457型 557型 657型 707型	0521 0108 000	
		757型 857型 1057型	0521 0110 000	
8	ワイヤ (主クラッチ)		1400 2108 001	
9	ワイヤ (ブレーキ)		1406 1702 000	
10	ワイヤ (サイドクラッチリンク部)	457型	1426 2153 001	
		557型 657型 707型	1426 2154 002	
		757型 857型 1057型	1427 2153 001	
11	ワイヤ (サイドクラッチレバー部)	457型	1400 2161 001	
		557型 657型 707型 757型 857型 1057型	1400 2162 001	
12	ワイヤ (スロットル)	457型 557型 657型 707型	1400 2202 000	
		757型 857型 1057型	1426 2202 000	
13	ワイヤ (ハンドルジョウゲ)		1401 1931 003	

※ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

4．潤滑油について

1．エンジンオイルについて

・次の三菱純正オイルのご使用をお奨めします。

メーカ		商品名
三菱農機		マルチSTOU（ストー）オイル（SAE10W−30）
		マルチGDオイル（SAE10W−30）
全農	ガソリン用	クミアイエンジンオイル
日石三菱	ガソリン用	ゴールドエンジンオイル（SAE20W）
		ゴールドエンジンオイル（SAE30）

・またはＡＰＩサービス分類ＳＤ級以上SAE10W－30をご使用ください。

・エンジンオイルは温度条件に合わせてご使用ください。

気温℃	−10　0　10　20　30
エンジンオイル	マルチSTOU（ストー）・SAE10W－30
	SAE20W ／／ SAE30

・マルチＳＴＯＵオイルまたはＳＡＥ10W－30は気温20℃以上でご使用の場合は，オイルの消費量が増すことがありますので，**「運転まえの点検」**を行なってください。

2．ギヤオイルについて

・次の三菱純正オイルのご使用をお奨めします。

メーカ名	商品名
三菱農機	マルチＳＴＯＵオイル（SAE10W−30）
	マルチＧＢオイル（SAE80W）
全農	クミアイギヤオイル（SAE80W,90）
日石三菱	ダイヤモンドハイポイドギヤオイル（SAE80W,90）

・またはＡＰＩ分類ＧＬ－4級以上SAE80W，90のギヤオイルをご使用ください。

3．三菱農機（純正油）マルチオイル

・マルチＳＴＯＵ（ストー）オイルは１種類でエンジンオイル又はギヤオイルとして１年中ご使用いただけるオールシーズンタイプです。

・マルチＧＤオイルはエンジン専用オイルです。

・マルチＧＢオイルはギヤおよび湿式ブレーキの特性を考えて開発された，ギヤ（Ｇ）と湿式ブレーキ（Ｂ）専用オイルです。

・マルチSHPギヤオイルは，ギヤ専用オイルです。

・お買い求めは，弊社販売店で取扱っていますのでご相談ください。



性状＼品名		マルチSTOUオイル	マルチGDオイル	マルチGBオイル	マルチSHPギヤオイル
密度　15℃ g／cm³		0.881	0.872	0.893	0.900
引火点　℃		210	229	230	230
流動点　℃		−37.5	−26.1	−35.0	−22.5
動粘度cSt	@ 40℃	62.0	67.5	78.4	188.5
	@100℃	10.8	11.4	9.8	17.5
粘度指数		168	163	104	100
ＡＰＩサービス分類		SD／CD／GL－4	SH／CD	GL－4	GL－5
ＳＡＥ粘度番号		10W－30	10W－30	80W	90
荷姿		ドラム・20Ｌ缶	18.9Ｌ缶	20Ｌ缶	ドラム・20Ｌ缶

取扱いのポイント

- **マルチGBオイルはエンジンオイルとしては使用できません。**

5．用語解説

（アイウエオ順）

アタッチメント……管理機購入後に取付ける部品。
スタンド……駐車用安定脚。
トレッド（輪距）……左右のタイヤ中心間の距離。
ＰＴＯ……作業機の動力軸。
フロントヒッチ……機械前部のウエイト・作業機取付部。
ホイルチューブ……車軸作業機取付部。
リコイルスタータ……手動でヒモを引き，エンジンを回転させ，始動させる装置（巻き戻し付き）。
リヤヒッチ……機械後部の作業機取付部。
ロータリ……回転式耕うん装置。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号(製造番号)は…？

型　　式

機械番号(製造番号)

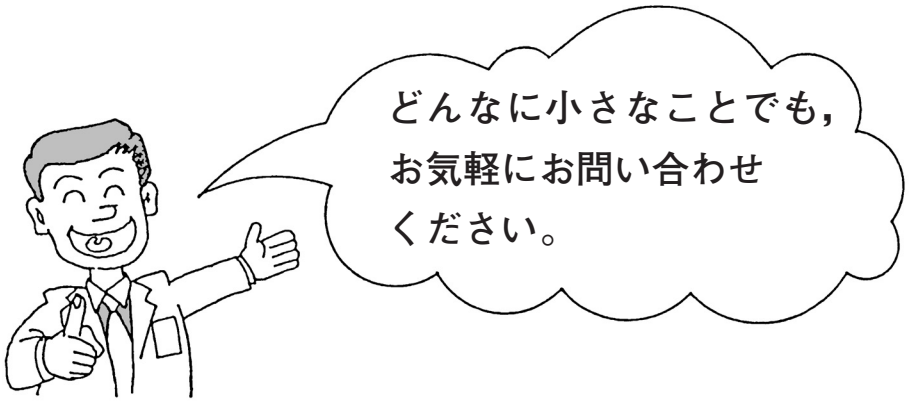
●ご使用状況は…？

(何速で，どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 _____ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



(ご相談窓口) お買いあげ先

TEL　　(　　)